

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	アートセラピー／文芸との触れ合いVB						
担当教員	石原 興子					科目ナンバ-	A22090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	アートセラピー（音楽）						
授業の概要	人は音楽や造形など様々な表現活動を行っています。それは人間の発達や変容にかかせない営みでもあります。日常の様々な音・音楽を意識することから、特に、医療・福祉・教育現場で行われている音楽療法という臨床的な分野を紹介し、様々な音・音楽の捉え方、芸術活動の営みに潜在している表現することの意味を探ることを目指します。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音・音楽について柔軟な考え方や捉え方ができるようになる【態度・志向性、汎用的技能】 2. 表現活動の演習を通して、自己を知ろうとすることができる【態度・志向性、汎用的技能】 3. 音楽療法について、基本的な知識と理解ができる【知識・理解】 4. 人が表現することの意味について考えていくことができる【態度・志向性、知識・理解】 						
授業計画	第1回目 イン트로ダクション 第2回目 アートセラピーとは 第3回目 音と「きく」こと 第4回目 音を通じたコミュニケーション 第5回目 音の要素 第6回目 音楽の要素 第7回目 即興音楽 第8回目 音と「つくる」こと 第9回目 言葉と音・音楽療法 第10回目 日本文化における音・音楽療法 第11回目 描画と音・音楽療法 第12回目 音楽療法の実際 第13回目 音楽療法の理論 第14回目 音楽療法の実践（講義・演習の後に小テストを行う場合がある） 第15回目 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で紹介する文献や配布されたプリントの取り扱う箇所を読んでおくこと。（学習時間90分） 授業後学習：各回の授業内で感じたことや考えをリアクションペーパーにまとめる。課題を出すので、その発表準備をすること。（学習時間90分）						
授業方法	講義：授業では、視聴覚教材を用いながら、また、楽器などを用いた実際の体験学習を通して、グループやペアによるディスカッションを行います。グループ（ペア）ワークの発表をふまえ、講義を行います。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物・授業への参加度40%、発表30%、レポート・小テスト等30% 授業内での提出物・授業への参加度：各回提出のリアクションペーパー、表現活動への取り組み、グループディスカッションへの参加度、内容により、総合的に評価。到達目標(1)(2)(4)に関する到達度の確認。 発表：テーマに対する自らの興味・関心の明確性について評価。到達目標(1)(2)(4)に関する到達度の確認。 レポート・小テスト等：授業で扱った音楽療法や音・音楽についての考え方に関する理解度、考察について評価。到達目標(1)(3)(4)に関する到達度の確認。 リアクションペーパーのコメント・質問等について翌週授業で紹介・解説します。発表は、発表後授業内で、レポートについては、最終回の授業内で講評します。						
履修上の注意	授業回数の3分の2以上の出席に満たない者、指定の発表日に不参加、レポート提出をしなかった場合は失格条件とします。						
教科書	教科書 適宜授業内でプリントを配布						
参考書	参考書 「音楽療法—ことばを超えた対話」 レスリー・バント著、稲田雅美訳、ミネルヴァ書房、ISBN4-623-02625-6						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	アミューズメント産業論						
担当教員	木川 剛志					科目ナンバ-	A72060
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	本授業ではアミューズメント産業としての“観光”にまつわる様々な社会問題の事例を学びながら、文芸とアミューズメントとの関係を概観する。						
授業の概要	観光が注目されている。それは世界的な観光客の増加、SDGsの推進における貢献、日本においてはインバウンド誘客による産業構造の変化、そして交流人口増加による地方の活性化、などによるものである。しかし、この急激な変化は日本社会に多くの軋轢を生み出している。本講義では観光の現場における課題をみんなで共有し、産業と文芸との関係を読み解きながら、これからの観光のあり方について一緒に考える。						
到達目標	①アミューズメント産業の問題点に対する知識を深め、議論を深めて理解する。【知識・理解】 ②観光におけるSDGsの実例を学び、今後のあるべき社会を思考できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 “これまでの観光とは違う観光”の考え方。 第2回 地方都市が観光に期待する交流人口とは。 第3回 まちづくり、「よそ者馬鹿者若者」から「地者キレ者中高年へ」。 第4回 地方発の短編映画。ムービーハッカソン。 第5回 地方発映画、その問題点とは① 第6回 地方発映画、その問題点とは② 第7回 これまでのまとめ。 第8回 地方に見られる面白観光映像問題とは① 第9回 地方に見られる面白観光映像問題とは② 第10回 世界最先端の観光映像。オーバーツーリズムを乗り越えて。 第11回 世界最先端の観光映像。インディペンデントな映像とは。 第12回 世界最先端の観光映像。SDGsを満たすために。 第13回 エンターテインメントと文芸の関係。 第14回 これからの観光のあるべき姿。 第15回 全体のまとめ。						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	【授業前】事前に指示する文芸作品を見ておくこと(2時間)。 【授業後】リアクションペーパーを記述し、自分の考えをまとめて次回に提出(2時間)。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	リアクションペーパーなどによる平常点20% レポート30% 期末試験50%						
履修上の注意	リアクションペーパーは出席者だけに配布する。アクティブラーニングを積極的に取り入れる。講義全体の2/3の出席がなければ受講資格を失う。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	イベント演出論						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバ-	A22040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日常には様々なイベントがある。ホームパーティや地域のお祭りからオリンピックまでその大きさも形態も様々である。この授業ではイベントの企画や運営に必要な知識から学び、効果的なイベントの演出について学ぶ。またそれとともにイベントにかかわる社会的、文化的、芸術的な側面についても考えてみたい。						
授業の概要	イベントの定義づけから始まり、イベントの企画運営にかかわる要素、そしてイベントが行われる空間の効果的な演出について、いくつかのイベントを例にとって学び、最終的にテーマを決めてイベントの企画と演出についてのプランを作成して発表してもらう。						
到達目標	① イベントの企画から当日までの流れを理解し、自分の言葉で誰にでも説明できるようになる。(知識・理解) ② 将来関わることになるかもしれない地域のイベント、仕事に関わったイベントに応用できる能力を身につける。(汎用的技能)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：授業の進め方や評価、イベントの定義づけについて 2. イベントの主役：商品、参加者、施設、スポーツ選手、歌手、俳優など 3. イベントの演出：空間 4. イベントの演出：音楽と照明 5. イベントの演出：人の動かし方、観客 6. ターゲット層に向けた広報と当日の演出、予算について 7. (事例1) 演劇① 公演の企画から当日までの準備 8. (事例1) 演劇② 劇場という空間について 9. (事例2) オリンピック：開催までの4年間の流れ 10. (事例2) オリンピック：開会式のパフォーマンス 11. (事例3) 夏祭り：野外でのステージやブースの使い方 12. 演習：グループでイベントの企画(催し物とテーマ設定) 13. 演習：グループでイベントの企画(具体的な内容) 14. 演習：プレゼンテーション 15. 授業内容のまとめ、グループ発表の講評 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習：与えられたテキストの予習、または企画を立案する課題などでも、詳細を参考図書やインターネットで情報収集を行ってください。(学習時間：2時間)</p> <p>授業後学習：授業内容を整理してまとめる。グループでうまくコミュニケーションをとり、プレゼンテーションの準備を行う。(学習時間：2時間)</p>						
授業方法	講義：イベントを演出する諸要素の解説を講義で行うとともに、実際に体験してみることでさらに理解を深める。各回のテーマに応じてグループディスカッションを行い、その結果を受けて講義により解説を行う。						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物(50%)、最終プレゼンテーション(50%)</p> <p>授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント・質問)の内容・記述の的確さを評価する。到達目標①の確認。</p> <p>最終プレゼンテーション：グループでイベント企画のプレゼンテーションを行い、これまで学んだイベント演出の知識をどの程度理解できているか、どの程度実際に応用できるかを評価する。到達目標②の確認</p> <p>課題に対するフィードバックの方法</p> <p>リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。プレゼンテーションに関しては最終の授業で講評する。</p>						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、最終プレゼンテーションの資格を失うものとする。						
教科書	適宜資料としてプリントを配布する。						
参考書	『新イベント運営完全マニュアル 最新改訂版』高橋フィデル(著)、宮崎博(編集)、ジャパンビジターズビューロー						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目																																																																		
科目名	イラストレーション・絵本／文芸との触れ合いⅡⅡA																																																																		
担当教員	中村 茂					科目ナンバ-	A22050																																																												
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0																																																												
授業のテーマ	パソコンソフトのIllustratorを活用したイラストレーション制作のスキルを習得する。																																																																		
授業の概要	パソコンのグラフィックソフト(Illustrator)を利用したイラストレーション制作の入門として、直線・曲線や文字などのオブジェクト入力、回転・拡大縮小などの編集、植物・動物・人間モチーフの描画、ポストカード作成などを通じて、基本的イラスト作成スキルを習得するとともに、簡単なイラストブックを制作する。																																																																		
到達目標	(1)イラストレーションというメディアの現代的な意味と価値を理解できる。【知識・理解】 (2)パソコンによるイラストレーションの基本的技能を活用した自身の表現ができる。【汎用的技能】 (3)イラストレーションと言葉の複合により、他者に伝わる表現ができる。【汎用的技能】																																																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1)</td> <td>10/02</td> <td>オリエンテーション</td> <td>PC教室・システムの使用方法、Illustratorの基本</td> </tr> <tr> <td>2)</td> <td>10/09</td> <td>直線・曲線の描き方</td> <td>ペンツールの使い方</td> </tr> <tr> <td>3)</td> <td>10/16</td> <td>フリーハンドでの描き方</td> <td>ブラシツールの使い方</td> </tr> <tr> <td>4)</td> <td>10/23</td> <td>オブジェクトの編集</td> <td>整列、拡大・縮小、回転、変形など</td> </tr> <tr> <td>5)</td> <td>10/30</td> <td>文字・テキストの編集</td> <td>フォント、スタイルなどのタイポグラフィ</td> </tr> <tr> <td>6)</td> <td>11/06</td> <td>ビクトグラムのコピー</td> <td>基本図形の編集によるオブジェクト作成</td> </tr> <tr> <td>7)</td> <td>11/13</td> <td>基本的なイラスト作成 - 1 -</td> <td>植物モチーフ</td> </tr> <tr> <td>8)</td> <td>11/20</td> <td>基本的なイラスト作成 - 2 -</td> <td>動物モチーフ</td> </tr> <tr> <td>9)</td> <td>11/27</td> <td>イラスト作成の応用スキル</td> <td>パターン、グラデーション、トレースなど</td> </tr> <tr> <td>10)</td> <td>12/04</td> <td>イラストブックの制作 - 1 -</td> <td>テーマ設定、ページ構成構想</td> </tr> <tr> <td>11)</td> <td>12/11</td> <td>イラストブックの制作 - 2 -</td> <td>イラスト制作</td> </tr> <tr> <td>12)</td> <td>12/18</td> <td>イラストブックの制作 - 3 -</td> <td>イラスト制作</td> </tr> <tr> <td>13)</td> <td>01/08</td> <td>イラストブックの制作 - 4 -</td> <td>イラスト制作</td> </tr> <tr> <td>14)</td> <td>01/15</td> <td>イラストブックの制作 - 5 -</td> <td>ページレイアウト、印刷・製本</td> </tr> <tr> <td>15)</td> <td>01/22</td> <td>講評</td> <td></td> </tr> </table>							1)	10/02	オリエンテーション	PC教室・システムの使用方法、Illustratorの基本	2)	10/09	直線・曲線の描き方	ペンツールの使い方	3)	10/16	フリーハンドでの描き方	ブラシツールの使い方	4)	10/23	オブジェクトの編集	整列、拡大・縮小、回転、変形など	5)	10/30	文字・テキストの編集	フォント、スタイルなどのタイポグラフィ	6)	11/06	ビクトグラムのコピー	基本図形の編集によるオブジェクト作成	7)	11/13	基本的なイラスト作成 - 1 -	植物モチーフ	8)	11/20	基本的なイラスト作成 - 2 -	動物モチーフ	9)	11/27	イラスト作成の応用スキル	パターン、グラデーション、トレースなど	10)	12/04	イラストブックの制作 - 1 -	テーマ設定、ページ構成構想	11)	12/11	イラストブックの制作 - 2 -	イラスト制作	12)	12/18	イラストブックの制作 - 3 -	イラスト制作	13)	01/08	イラストブックの制作 - 4 -	イラスト制作	14)	01/15	イラストブックの制作 - 5 -	ページレイアウト、印刷・製本	15)	01/22	講評	
1)	10/02	オリエンテーション	PC教室・システムの使用方法、Illustratorの基本																																																																
2)	10/09	直線・曲線の描き方	ペンツールの使い方																																																																
3)	10/16	フリーハンドでの描き方	ブラシツールの使い方																																																																
4)	10/23	オブジェクトの編集	整列、拡大・縮小、回転、変形など																																																																
5)	10/30	文字・テキストの編集	フォント、スタイルなどのタイポグラフィ																																																																
6)	11/06	ビクトグラムのコピー	基本図形の編集によるオブジェクト作成																																																																
7)	11/13	基本的なイラスト作成 - 1 -	植物モチーフ																																																																
8)	11/20	基本的なイラスト作成 - 2 -	動物モチーフ																																																																
9)	11/27	イラスト作成の応用スキル	パターン、グラデーション、トレースなど																																																																
10)	12/04	イラストブックの制作 - 1 -	テーマ設定、ページ構成構想																																																																
11)	12/11	イラストブックの制作 - 2 -	イラスト制作																																																																
12)	12/18	イラストブックの制作 - 3 -	イラスト制作																																																																
13)	01/08	イラストブックの制作 - 4 -	イラスト制作																																																																
14)	01/15	イラストブックの制作 - 5 -	ページレイアウト、印刷・製本																																																																
15)	01/22	講評																																																																	
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	日常的に目にする雑誌、絵本、コミックなどのイラストレーションに関心を持つ。また紙の上でのペンや色鉛筆によるスケッチやイラストを試み、アナログ手法を体験することで、PC上での作画作業との違いを理解する。グラフィックソフトによる作画手順を手描き作業で復習することで、ソフトの機能と操作について習熟する。合わせて4時間程度。																																																																		
授業方法	講義・実技 PC教室で各自が1台ずつのPCを利用し、グラフィック・ソフトの操作方法の講義を聞き、実技でスキルを習得する。																																																																		
評価基準と評価方法	最終課題作品60%、平常点40%で評価します。 平常点は毎回の課題の提出状況、スキルの上達度を評価します。																																																																		
履修上の注意	制作プロセスは各段階での操作や技法の理解を段階的に踏まえる必要があるため、常に出席を心がけ、欠席した場合は次回までに必ず授業内容を自習すること。 教科書を必ず購入し、毎回の授業に持参すること。 A4サイズのクリアファイル(授業で指定)を購入し、制作課題を保存すること。																																																																		
教科書	「Illustratorでイラストを描こう！ 超入門教室」、廣まさき著、技術評論社、¥1,980(本体) ISBN978-4-7741-8166-0																																																																		
参考書	授業中に紹介します。																																																																		

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	映像と大衆文化／比較文化IIA						
担当教員	西岡 恒男					科目ナンバ-	A32030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	上方漫才の歴史と1980年代のテレビにおける大衆文化						
授業の概要	<p>本講義では、1980年代の日本の映像文化を考察する。今回は、上方（大阪／関西）を中心とした漫才の歴史と文化を概観したい。</p> <p>漫才は、もとは「万歳」と呼ばれる日本の民俗芸能だったが、明治末期から大正・昭和期にかけて現在の形へと発達し、戦後はテレビの普及とともにもっとも身近な大衆文化に成長した。さらに、テレビではかつて「演芸番組」があったが、現在は「M-1」をはじめとする「ネタ番組」へと変化している。</p> <p>実際、漫才のネタやリズムなどは、とくに1980年代のテレビ文化・若者文化のなかで大きく変わってきたように思われる。その端緒は、1980年に起こった「漫才ブーム」にある。事実、私たちがよく知るテレビタレントは、この1980年代に登場・活躍した人物（ビートたけしからダウンタウンまで）や、その影響を受けてきた人々だ。そこで、現在の日常生活で親しんでいるテレビ文化を深く掘り下げ、漫才の歴史や変遷をみながら、その時代背景や社会の影響を理解することを目標とする。</p> <p>また、そもそも「笑い」とはどういうものか。その仕組みについても、古典的なベルクソンの議論などを中心に解説する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上方漫才の歴史を通じて、現在にまで影響をもつ1980年代のテレビ文化・大衆文化を知ることができる。【知識・理解】 2. 「笑い」のメカニズムについて知ることができる。【知識・理解】 3. 現在の日常生活で親しんでいるテレビ文化を深く掘り下げ、その時代背景を具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】 						
授業計画	<p>第1回 「万歳」から「漫才」へ：その起源</p> <p>第2回 漫才の確立：初期のスタイル</p> <p>第3回 戦前・戦後期の上方漫才</p> <p>第4回 戦後上方漫才界を代表するスター：いとし・こいし／ダイマル・ラケット</p> <p>第5回 松竹芸能から吉本興業へ：横山やすし・西川きよしの活躍</p> <p>第6回 1980年（1）：テレビ文化と戦後日本社会の転換点</p> <p>第7回 1980年（2）：「漫才ブーム」の到来とその影響</p> <p>第8回 1980年（3）：漫才ブームを彩る漫才師たち</p> <p>第9回 漫才師からテレビスターへ：ビートたけし</p> <p>第10回 1980年代テレビ論（1）：「お笑いBIG3」：タモリ</p> <p>第11回 1980年代テレビ論（2）：「トレンドイタレント」：明石家さんま</p> <p>第12回 1980年代テレビ論（3）：「アイドル漫才師」：とんねるず</p> <p>第13回 1980年代テレビ論（4）：「フリートークの漫才」：笑福亭鶴瓶・上岡龍太郎</p> <p>第14回 ダウンタウンの登場</p> <p>第15回 【まとめ】1990～2000年代のお笑いへ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回講義前に資料を熟読しておくこと。資料は配布するか、松蔭manabaにアップする（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：松蔭manabaを活用したフィードバック学習に取り組むこと。古典的な漫才や最新の漫才などについて、インターネットを活用して知識を増やすこと（学習時間：2時間）</p>						
授業方法	テレビ文化についての講義、毎回リアクションペーパーを要求する。また、松蔭manabaでのフィードバック学習について、授業内で小テストを設ける。						
評価基準と評価方法	<p>リアクションペーパー 30%、松蔭manaba 30%、レポート 40%</p> <p>リアクションペーパーでは授業内容の理解度をチェックする。また、リアクションペーパーに書かれたコメント・質問については翌週の授業内で解説する。</p>						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前後半の授業回数15回中、3分の1以上の欠席者は原則単位認定を行わない。 2. 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 3. レポート未提出者は原則単位認定を認めない。 4. レポート提出についての詳細は授業内で説明する。 						
教科書	教科書はないが、毎回プリントを配布するのでこれを教科書代わりとする。						
参考書	<p>戸田学『上方漫才黄金時代』、岩波書店、2016、ISBN：978-4-00-061130-5</p> <p>アンリ・ベルクソン『笑い』、増田靖彦訳、光文社古典新訳文庫、2016、ISBN：978-4334753337</p> <p>大塚英志『「おたく」の精神史 一九八〇年代論』、星海社新書、2016、ISBN：978-4-06-138579-5</p>						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	演劇と現代社会／文芸特殊講義VB						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバ-	A43050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	第2次世界大戦後の日本と英米の演劇発展の基本的知識を習得する。						
授業の概要	西洋演劇の概説を含め、ドラマとシアターの諸要素を学ぶ。代表的な劇作家の作品を、その時代背景、または上演技術の発展などの要素も含めて紹介し、現在の演劇とも結びつけた考察も行う。						
到達目標	①戯曲と上演の結びつきをよく理解し、演劇学研究に必要な基本的知識を身につけ、実際のろぼーと作成をに応用することができる（汎用的技能） ②演劇の発展の中で登場する重要な演劇人について自分の言葉でしっかり語ることができるようになる（知識・理解）						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の戦後新劇：① 戦前から戦後にかけての新劇について 2. 日本の戦後新劇：② 戦後新劇の大衆化と映画界との関係について 3. 日本の小劇場：寺山修二① 1960年代における日本の小劇場運動 4. 日本の小劇場：寺山修二② 初期の実践『毛皮のマリー』の考察 5. 日本の小劇場：寺山修二③ 後期の実践 観客と舞台との境界の消滅 6. 日本の小劇場：1980年代① つかこうへいの功績 7. 日本の小劇場：1980年代② バブル景気という背景と小劇場 8. 日本の小劇場：1980年代③ 野田秀樹と鴻上尚史などの実践 9. 英米の現代演劇① スタニスラフスキー・システムの実践と演技術の発展 10. 英米の現代演劇② フェミニズム、ジェンダー、セクシャリティー 11. 英米の現代演劇③ ポスト・コロニアリズム 12. ブロードウェイ・ミュージカル① ミュージカルの定義とその歴史 13. ブロードウェイ・ミュージカル② 1980年代のスペクタクルなミュージカル 14. ブロードウェイ・ミュージカル③ 多様な音楽、ダンス様式を採用したミュージカル 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマの概要を調べ、400字程度でまとめておく。（学習時間2時間程度） 授業後学習：授業で取り上げた内容や重要箇所について整理し、授業内で与えられた課題を松陰Manabaコースコンテンツに提出する。（学習時間2時間程度）						
授業方法	講義：講義で概要を解説し、その後提示されたテーマについてディスカッションを行い理解を深める。授業のまとめとして、補足の解説を行う。また、上演の形式などの解説は、映像資料を用いて解説することが多い。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物（40%）、期末レポート（60%） 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）の内容・記述の的確さを評価する。到達目標②の確認。 期末レポート：指定されたテーマに示された問題を、明確に議論して解決できる能力を評価する。到達目標①の確認 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。レポートの講評は松陰Manabaで告知する。						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。						
教科書	適宜プリントを配布。						
参考書	参考文献は、テーマごとに講義期間中に適宜紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	キャラクタービジネス論						
担当教員	辻 幸恵					科目ナンバ-	A72070
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまなビジネスをキャラクターグッズを通じて知り、マーケティングの重要性を学び生活の中で考察する力を養う。						
授業の概要	グローバル化が進む社会でキャラクター（マスコット）は多様なビジネスの要素を含んでいる。たとえばゆるキャラは地域に、スポーツマスコットは世界に、貢献しアピールしながらビジネスモデルをもっている。それらを学びよりビジネスを身近に感じてもらうことを目指し、キャラクターを使う意味について学ぶ。						
到達目標	<p>1. ビジネスの基本の広告を知り、造形的なキャラクターを通じて広告とアートの融合的販売戦略を構築できる。そして現代におけるキャラクター（文芸的）所産に美的価値だけでなく、心理的販売促進的価値を理解する。【知識・理解】</p> <p>2. キャラクタービジネスを通じてマーケティングの要素を習い、それらの社会的意味を説明できる。【汎用的技能】</p> <p>3. キャラクタービジネスの特性を理解し、他のビジネスへの応用できる洞察力とキャラクターとビジネスを融合的に理解し、生活内に応用できる態度を育て社会に貢献する方策を考察できる。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 キャラクタービジネスとは何かを考える視点を養うために：ビジネスにおいて、どのようなキャラクターが使用されているのかを知る。（教科書は第1章pp. 2-11）</p> <p>第2回 キャラクターの定義と日本産キャラクターの魅力について：日本産のキャラクターを例示し、キャラクターの系譜の分類と日本産のキャラクターの特徴（ゆるキャラを例示）について知る（教科書pp. 12-43）</p> <p>第3回 キャラクターの分類と多様性：キャラクターの分類ごとのメディア性やシンボルの意味について論じる。（教科書pp. 44-59）</p> <p>第4回 企業キャラクターの事例（不二家のペコちゃん）：ペコちゃんを用いた世論形成を時系列的に当時の事件を参考にしながら理解し、それらの事象を論じる。（教科書第2章pp. 62-82）</p> <p>第5回 キャラクターとマーケティングとの関係：ひきつづきペコちゃんの事例を参考にして、不二家の菓子メーカーとしてのマーケティングを学ぶ。（pp. 63-101）</p> <p>第6回 消費者視点へのアピールとキャラクターマーケティング：キャラクターを使用した売り方の工夫を理解し、論理的にそれらを活用できる基礎知識を学ぶ（教科書第3章pp. 104-121）</p> <p>第7回 消費者心理とキャラクターの特性：G・ジンメルの理論をもとに、現在のキャラクターの伝播について学び、消費者の心理の基礎を理解する。（pp. 122-133）</p> <p>第8回 ビジネス活用とキャラクターの魅力：キャラクターに対する好悪を知ることによって、ビジネスの対象者（ターゲット）を選定する方法を学ぶ（教科書第4章pp. 136-160）</p> <p>第9回 キャラクター商品への理解：大学生が好むキャラクターとグッズ使用のTPOについて学ぶ。（pp. 167-182）</p> <p>第10回 キャラクタービジネスのメリットとデメリット：ここまででマーケットから見たキャラクターの利点と不利な点を中心にこれまでの学習の中間的なまとめをおこなう。</p> <p>第11回 企業キャラクターの本質と法律：キャラクターグッズなどの法律関係を理解する。（教科書第5章pp. 183-195）</p> <p>第12回 キャラクターの商標権：商標権の目的、条件などを具体例をあげながら理解する。（pp. 196-200）</p> <p>第13回 キャラクタービジネスに関する法律：著作権、商標法、意匠法などキャラクタービジネスに必要な法律を中心に具体的な例（ウルトラマン、サザエさん）をあげて説明する。（教科書第6章pp. 212-233）</p> <p>第14回 キャラクターに関する諸問題について：漫画やアニメのキャラクターを利用した場合の現実的な問題点を学ぶ。（pp. 234-253）</p> <p>第15回 キャラクターのライセンスと授業内容のまとめ：ライセンスの話にふれた後・総復習と確認問題を出して理解度を検証する（第7章pp. 256-295）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（詳細は授業内で指示：主に次回の授業で学ぶ教科書を読んでおくこと、キャラクターに関連するニュースを見ておくこと）（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理をする。具体的には教科書にそって授業をしているので毎回の授業での復習をしておくこと。（学習時間2時間分）</p>						
授業方法	講義（各回設定のテーマについて講義をおこなう。各回の授業内で確認問題も解く）						
評価基準と評価方法	<p>評価基準と評価方法</p> <p>平常点40%：各回の授業内で毎回3問ずつ問題を出すのでその解答を提出。（到達目標1の到達度の確認）正しい解答は問題を出した次週に解答を示す。</p> <p>レポート20%：9回目に課題を提示する。10回目に提出。（到達目標2の到達度の確認）</p> <p>15回目の確認問題40%：授業で学習したキャラクタービジネスについての確認。（到達目標3の到達度の確認）</p> <p>課題に対するフィードバックの方法</p> <p>毎回の授業のはじめに前回の問題の解答を解説する。</p>						

履修上の注意	1. 毎回の授業内で実施する問題に対する解答はその授業内に提出すること。 2. 遅刻・早退は認めない
教科書	『キャラクター総論』、辻幸恵・梅村修・水野浩児著、白桃書房、2009年、ISBN 978-4-561-26509-2
参考書	『売れるキャラクター戦略』、いとうとしこ著、光文社新書、2016年、ISBN 978-4-334-03960-8

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	キリスト教美術史						
担当教員	上久保 真理					科目ナンバ-	A43010
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教と美術との関わりを読み解く。						
授業の概要	キリスト教と美術との結びつきは深い。同時に、目には見えない「神」という観念と、見ることを前提とする美術との隔たりは大きい。目に見えないものを解釈し、目に見えるかたちに翻訳するという矛盾に満ちた努力が、図像学的な体系を生み、キリスト教西欧の文化を押し進めてきたと言える。この授業では「作品」を読み解くことを通じて、キリスト教西欧における美術の意義について考察する。						
到達目標	1) キリスト教西欧の美術の容容と多様化を概観し、その背景にあるキリスト教解釈と美術との深い関わりについて理解し、レポートを記述することができる。【知識・理解】 2) キリスト教と美術との結びつきを踏まえてキリスト教西欧における美術の意義について考え、さらには今日の美術の意味・価値について自分の意見を持つことができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ヨーロッパの形成とローマ帝国の崩壊 第2回 ゲルマン人とキリスト教 第3回 カロリング朝とオットー朝の美術 第4回 聖遺物崇敬・聖像理論 第5回 修道院・巡礼・十字軍 第6回 ロマネスクの建築と造形イメージ 第7回 ゴシックの建築と視覚性 第8回 ルネサンスの息吹 第9回 科学と芸術 第10回 ローマ教皇庁とマニエリスム 第11回 宗教改革とプロテスタント 第12回 反宗教改革と異端の概念 第13回 プロテスタントイズムと美術の世俗化 第14回 映画とキリスト教 第15回 キリスト教美術の行方						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：授業計画の各回のテーマについて、各自が前もってインターネットで検索、図書室で調べてみるなどして予習を行うこと(学習時間2時間)。 授業後学習：授業で取り上げた箇所の時代背景や、授業で興味を持った作品・作家について、各自がさらに掘り下げて調べてみること(学習時間2時間)。 授業中に告知する展覧会などへ積極的に足を運び、生の作品に触れること。紹介した図書、映画なども見てみたい。						
授業方法	講義形式。 スライド、DVDなどの使用。 個人もしくはグループ単位での発表・ディスカッションも取り入れる。						
評価基準と評価方法	平常点(毎回のコメントを含む)30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合によって評価。						
履修上の注意	私語、携帯やメールの使用、授業中の出入りは慎むこと。 希望があれば費用各自負担・自由参加で学外見学することも可能。 授業の進行状況等により、毎回の授業計画に多少の変更の可能性もある。 ※質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	ギリシャの神話と文学／西洋古典入門IA（ギリシアの神話と文学）						
担当教員	木下 昌巳					科目ナンバ-	A71050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	古代ギリシアの神話と文学						
授業の概要	古代ギリシア人の驚嘆すべき文化的達成（文学、歴史、哲学、弁論、彫刻、建築等々）は西洋、ひいては現代世界の学問文化の源流であるとともに、今日もその規範としての意義を失っていない。そして、古代ギリシアの神話は、諸民族の神話と比較しても格段に豊かで洗練された内容をもつものであり、彼らが達成した文化的創造の多くは、この神話から得られたインスピレーションを源泉として生まれだされたと言っても過言ではない。この授業では万華鏡のようなギリシア神話の世界と、その神話を題材としたギリシア古典文学の特質と魅力をあきらかにする。						
到達目標	1. ギリシア神話の世界観を理解し、物語とエピソードを説明することができるようにする。【知識・理解】 2. 古代から現代にいたるまでの西洋の文学や芸術を理解するために不可欠となるギリシア神話とギリシア文学に関する知識を身につけることができる。【汎用性技能】 3. ギリシア神話の知識を身につけることによって、西洋の文学全体、さらに映画やアニメなどの成り立ちやテーマに対する理解を深めることができる。【態度・指向性】						
授業計画	第1回 「神話」とは何か？ ギリシア神話の原典は？ 第2回 ギリシア神話の構造—宇宙の生成、神々、英雄、人間 第3回 ギリシア文学の時代区分と古典期アテナイ—ギリシア文化の黄金期 第4回 王位簞奪神話とオリンポスの神々 第5回 トロイア戦争とホメロスの叙事詩(1)—『イリアス』 第6回 トロイア戦争とホメロスの叙事詩(2)—『オデュッセイア』 第7回 プロメテウス神話とヘシオドスの人間観 第8回 アイスキュロスの『縛られたプロメテウス』 第9回 ギリシア神話の英雄たち—ヘラクレス 第10回 ギリシア神話の英雄たち—ペルセウス 第11回 ギリシア神話と日本の神話 第12回 ギリシア悲劇の最高傑作—ソポクレスの『オイディプス王』 第13回 女の叫び—エウリピデスの『メデア』 第14回 貞淑で賢い女の楽しい話—エウリピデスの『ヘレネー』 第15回 授業内容のまとめと展望						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回講義前に授業回に該当するテキストの章を熟読しておくこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：松蔭manabaを活用したフィードバック学習に取り組むこと。授業で使用したスライドのファイルはmanabaにアップロードするので、各自ダウンロードして活用すること。（学習時間：2時間）						
授業方法	パワーポイントを使用したスライドを参照しながら、講義をおこなう。 講義の内容について毎回リアクションペーパーを書いて提出する。						
評価基準と評価方法	1. リアクションペーパー30%、授業終了後のレポート70%として総合的に評価する。 2. レポートについての詳細は授業内で説明する。						
履修上の注意	1. 授業回数15回中、3分の1以上の欠席者は原則単位を認定しない。 2. 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 3. レポート未提出者は原則単位認定を認めない。						
教科書	『ギリシア神話—神々と英雄に会う』、西村賀子、中公新書 ISBN-12-101798-6						
参考書	『完訳 ギリシア・ローマ神話』（上・下）、トマス・ブルフィンチ（大久保博訳）、角川文庫、ISBN: 978-4042243045、978-4042243052 『100の傑作で読むギリシア神話の世界：名画と彫刻でたどる』、マルグリット・フォンタ（遠藤ゆかり訳）、創元社、ISBN: 978-4422143958						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広告企画編集A						
担当教員	中谷 悦子					科目ナンバ-	A7313A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	広告の基礎知識の理解および表現方法の習得。						
授業の概要	広告とは、さまざまなメディアを活用し、言葉、映像、音楽を使って効果的に企業のメッセージを伝達するものです。この授業では、移り変わりゆく広告ビジネスやメディアの現況、広告制作のプロセスを理解し、広告の表現手法を学びます。広告制作の基本（コンセプトワークやコピーライティング）を学び、クリエイティブな発想力を磨くことにより、自己表現能力、コミュニケーション力の向上をめざします。						
到達目標	自分の考えやアピールポイントを、文章で効果的に表現し、相手にうまく伝えることができます。これは、就職活動や日常のコミュニケーションの円滑化にも大いに役立てることができます。また、ものごとの本質を見極める力、他社へ共感する力を育て、これらで社会に貢献することができます。						
授業計画	<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（授業の概要、進め方、成績評価の方法、注意事項など）。自己紹介。 2. 広告とコミュニケーション ※広告って、なあに？ 3. 広告と産業、広告ビジネスの概要 ※広告マンって、どんな人？ 4. メディアと広告表現①（新聞・雑誌） ※話題の広告を見てみよう。 5. メディアと広告表現②（テレビ・ラジオ） ※話題の広告を見てみよう。 6. メディアと広告表現③（アウト・オブ・ホームメディア） ※話題の広告を見てみよう。 7. メディアと広告表現④（インタラクティブメディア） ※話題の広告を見てみよう。 8. 広告計画からクリエイティブワークまで ※あの広告は、どうやってできた？ 9. ブランディングとは。 ※ブランドって、なんだ？ 10. コンセプトの発見。 ※何を訴えるか？ 11. 表現アイデアとその発想法 ※どう訴えるか？ 12. プレゼンテーションの手法 ※どう売り込むか？ 13. クリエイターの現場①ゲストスピーカーによる講義。 14. クリエイターの現場② ※TVCFは、どうやってできる？ 15. 広告制作のルールと倫理 ※広告に著作権ってあるの？ 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習として、ふだん何気なく見ているテレビや新聞、ネットなどの広告、街にある看板やPOPなどを意識的に見るように心がけてください。そして、心に残ったキャッチフレーズや感じたなどを心に留めておきましょう。（90分）事後学習として、授業で学んだ広告理論等が、どのように社会で反映されているかを検証してみましょう。（90分）						
授業方法	講義、広告作品鑑賞、広告企画・コピーライティング演習、ディスカッション、プレゼンテーション						
評価基準と評価方法	評価のための期末試験はおこないません。講義の中で何回か課題を出しますので、必ず提出してください。提出課題の内容、取り組み姿勢、発表力などを考慮し、総合的に評価します。						
履修上の注意	この授業では、毎回みなさんに「書くこと」をしていただきますので、「書くこと」に興味のある人が対象です。さらに自分の意見や考えを「話すこと」にもチャレンジしてください。そして広告企画を通じて、アイデアを練る楽しさや表現する楽しさを味わいましょう。						
教科書	なし						
参考書	小松洋支、中村卓司 監修 『新コピーライター入門』（株）電通 藤沢武夫 『広告の学び方づくり方』 昭和堂 岸 勇希 『コミュニケーションデザインーコミュニケーションをデザインする』（株）電通						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広告企画編集B						
担当教員	中谷 悦子					科目ナンバ-	A7313B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	広告の基礎知識の理解および表現方法の習得。						
授業の概要	<p>広告とは、さまざまなメディアを活用し、言葉、映像、音楽を使って効果的に企業のメッセージを伝達するものです。この授業では、移り変わりゆく広告ビジネスやメディアの現況、広告制作のプロセスを理解し、広告の表現手法を学びます。広告制作の基本（コンセプトワークやコピーライティング）を学び、クリエイティブな発想力を磨くことにより、自己表現能力、コミュニケーション力の向上をめざします。</p>						
到達目標	<p>自分の考えやアピールポイントを、文章で効果的に表現し、相手にうまく伝えることができます。これは、就職活動や日常のコミュニケーションの円滑化にも大いに役立てることができます。また、ものごとの本質を見極める力、他社へ共感する力を育て、これらで社会に貢献することができます。</p>						
授業計画	<p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コピーライティングとは。 ※キャッチフレーズを作ってみよう。 2. コピーライターの資質。 ※コピーライターって、どんな人？ 3. 欧米の広告表現 ※欧米の広告、TVCFを見てみよう。 4. アジアの広告表現 ※アジアの広告、TVCFを見てみよう。 5. 日本の広告表現 ※日本の広告、TVCFを見てみよう。 6. 広告業界の現状。(ゲストスピーカーによる講義) ※広告業界の“いま”を知ろう。 7. 広告に見る企業のイメージ戦略 ※好きな企業について話してみよう。 8. クロスメディアと広告キャンペーン ※クロスメディア広告を探そう。 9. 公共広告について。 ※公共広告ってなあに？ 10. ワンコピー、ワンビジュアル ※いろんな表現方法を考えよう。 11. 広告プランニング演習(新聞広告) ※好きな企業(商品)の広告を企画してみよう。 12. 広告プランニング演習(TVCF) ※好きな企業(商品)の広告を企画してみよう。 13. 広告制作演習① ※好きな企業(商品)の広告をつくってみよう。 14. 広告制作演習② ※好きな企業(商品)の広告をつくってみよう。 15. プレゼンテーション ※自作の広告をプレゼンテーションしよう。 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>事前学習として、ふだん何気なく見ているテレビや新聞、ネットなどの広告、街にある看板やPOPなどを意識的に見るように心がけてください。そして、心に残ったキャッチフレーズや感じたなどを心に留めておきましょう。(90分) 事後学習として、授業で学んだ広告理論等が、どのように社会で反映されているかを検証してみましよう。(90分)</p>						
授業方法	講義、広告作品鑑賞、広告企画・コピーライティング演習、ディスカッション、プレゼンテーション						
評価基準と評価方法	<p>評価のための期末試験はおこないません。講義の中で何回か課題を出しますので、必ず提出してください。提出課題の内容、取り組む姿勢、発表力などを考慮し、総合的に評価します。</p>						
履修上の注意	<p>この授業では、毎回みなさんに「書くこと」をしていただきますので、「書くこと」に興味のある人が対象です。さらに自分の意見や考えを「話すこと」にもチャレンジしてください。そして広告企画を通じて、アイデアを練る楽しさや表現する楽しさを味わいましょう。</p>						
教科書	なし						
参考書	<p>小松洋支、中村卓司 監修 『新コピーライター入門』 (株) 電通 藤沢武夫 『広告の学び方づくり方』 昭和堂 岸 勇希 『コミュニケーションデザインーコミュニケーションをデザインする』 (株) 電通</p>						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広告表現・コピーライティング／文芸との触れ合いVIA						
担当教員	光居 誠					科目ナンバ-	A22100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広告・コピーライティングの理論と実践						
授業の概要	「広告はラブレターである」「広告はニュースである」…等、広告クリエイティブは様々な側面から語られますが、生活者（消費者）の心の動きを洞察し、いかに購買に結びつけるかを突き詰めて考えていく作業です。本授業では、広告クリエイティブのキーであるコピーについての考察を様々な角度から行っていきます。自分ならではのモノの見方や自分らしい言葉で商品やサービスを語る（伝える）作業を実践的に行いながらコピーライティングの基本を学んでいきます。						
到達目標	知識・理解：広告クリエイティブ（コピーを主として）の成り立ちを知ることで、その意味や効果を理解できるようになり基本的な制作のノウハウを習得できる。汎用的技能：ワークショップ形式で広告コピー制作を実践することで、自ら言葉を生み出し磨く術を体感し、広汎なコミュニケーションに活かすことができるようになる。態度・志向性：広告クリエイティブのアプローチを基盤として、様々なコミュニケーションの場面で活かすことができる発想（の志向性）を身につけることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション・広告クリエイティブで一番大切なこと（自分のキャッチフレーズを考える） 第2回 本校の学生募集広告を考えよう 第3回 クリエイティブワークショップその1 第4回 A C ジャパンキャンペーンの研究と課題 第5回 クリエイティブワークショップその2（公共広告） 第6回 課題の商品のブランディングを考えよう 第7回 クリエイティブワークショップその3（商品ブランディング） 第8回 広告規制のはなし（ゲストスピーカー：JARO） 第9回 課題のテレビCMを考えよう 第10回 クリエイティブワークショップその4（テレビCM） 第11回 企業広告の課題と研究 第12回 クリエイティブワークショップその5（企業広告） 第13回 新しいサービスやモノ・店づくりから広告まで考えよう 第14回 クリエイティブワークショップその6 第15回 この授業のまとめと世界の広告の潮流						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：自分が気になるテレビCM、新聞広告、電車内吊りポスターなどを1～2点ピックアップ。ターゲット（誰に）、目的（何を）、表現方法（どのように）を考察してまとめる（学習時間2時間） 授業後学習：ワークショップでの制作課題を推敲し課題を完成させて、次回の授業で発表できるように準備する（学習時間2時間）						
授業方法	講義と実習（クリエイティブワークショップ）						
評価基準と評価方法	平常点50%：授業内でのグループディスカッションや質疑応答の内容を認定。 課題の提出と発表50%：各回の課題に対するレポートと発表の内容を認定。						
履修上の注意	授業の中で、実際の広告コピー制作の課題を与えます。想像力を駆使して制作に取り組んでください。また、そのために考えた自分らしい仮説やアプローチを最重視します。						
教科書	教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。 授業に当たって、ACC（全日本CMフェスティバル）入賞作やACジャパンキャンペーン等のCM作品を鑑賞します。						
参考書	授業の中で適宜紹介していきます。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広報広告とコミュニケーション／比較文化VA						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	A32060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広告（広報）に関する基礎的な知識の応用						
授業の概要	本講義では、広告（広報）の基礎的な知識をもとに、社会において広告がどのように役立っているのかを多角的に理解しつつ、実際の広告物の制作へとつなげていくことを目指します。まず、映画やソーシャルメディアを事例に、広告（広報）の役割をさまざまな角度からみていきます。また、それらのトピックごとに広告（広報）を企画することによって、広告制作がどのようなものなのかについて実践的に学びます。これらを踏まえ、最後に、簡単な広告をつくることに挑戦してもらいます。						
到達目標	<p>（1）映画やソーシャルメディアにおける広告（広報）の役割について多角的に理解できるようになる。【態度・志向性】</p> <p>（2）広告（広報）の企画や制作を通じて、情報を取捨選択し、まとめ、自分のアイディアを発信するための力を身につけます。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イン트로ダクション 2 映画と広告（1）：ジブリ映画の広告①：仕組み 3 映画と広告（2）：ジブリ映画の広告②：事例 4 映画と広告（3）：制作委員会方式 5 映画と広告（4）：映画広告の企画 6 ソーシャルメディアと広告（1）：『トウルーマン・ショー』鑑賞 7 ソーシャルメディアと広告（2）：『トウルーマン・ショー』解説 8 ソーシャルメディアと広告（3）：ネット時代の消費と広告 9 ソーシャルメディアと広告（4）：イベントの企画 10 広告をつくる（1）：広告の表現方法を学ぶ 11 広告をつくる（2）：広告コンセプトを決める 12 広告をつくる（3）：広告の表現方法を決める 13 広告をつくる（4）：広告を完成させる 14 制作課題発表会 15 まとめ <p>・なお、授業の内容を変更する可能性がある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	原則として授業時間内で広告企画や広告制作など、すべての学習を行う。 授業後学習：授業時間内で完成できなかった人は、次の回までに完成させておくこと。（学習時間：4時間）						
授業方法	講義。基本的には解説・講義を行う。 広告企画や広告制作に際しては、個人やペアによるワークをする。						
評価基準と評価方法	<p>制作課題 50%： 広告（広報）制作を通じて、自分のアイディアを発信できているか評価する。到達目標（2）の到達度の確認。</p> <p>広告企画 20%： 広告（広報）の企画を通じて、現代社会におけるそれらの役割が理解できているかを評価する。到達目標（1）の到達度の確認。</p> <p>授業態度 30%： 各回提出のリアクションペーパーの内容・記述の的確さを評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。</p> <p>なお、第14回に制作課題発表会を実施し、制作物に対する評価をフィードバックする。</p>						
履修上の注意	2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	毎回プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広報広告と社会／比較文化VB						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	A32070
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広告・広報（PR）活動の理解						
授業の概要	<p>広告・広報（PR）活動についての基本的な知識を習得することを目指す。私たちはふつう広告や広報を受け取る側において、それらがどのようにして制作されているのかを知る機会がほとんどない。しかし、広告や広報が私たちに届けられるまでには多くの人や組織が関わり、多大な時間とお金がかけている。この講義では、広告の分類や広告に関わる組織、広告表現、広告関連の法規や規制、広報の多様性など、広告・広報活動を理解するために必要な基礎的な知識を学ぶ。実際にテレビCMやネット広告、クリエイターの仕事、広報活動などを見ながら解説していく。</p>						
到達目標	<p>（1）広告や広報の送り手（広告主・広告会社）がどのような流れで広告・広報を制作しているのか、その実務的なプロセスについて体系的な知識を習得することができる。【知識・理解】</p> <p>（2）実際の広告物を専門用語を使って分析できる。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨン 2 広告とは何か 3 マーケティングと広告 4 広告主と広告会社 5 広告費 6 広告表現①：比較広告 7 広告表現②：アートディレクターの仕事 8 広告媒体 9 広告の効果 10 広告関連の法規と規制 11 インターネット広告 12 広報（PR）の基本 13 さまざまな広報活動 14 レポート検討会 15 まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習： 各回授業で扱うテーマに関するニュースや新聞記事を下調べする。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点を確認・整理する。（学習時間：2時間）</p>						
授業方法	講義。ただし簡単なグループワークをする機会を設ける。						
評価基準と評価方法	<p>期末レポート 70%： 授業で学習した内容を踏まえたレポートが作成できているか評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。</p> <p>授業態度 30%： 各回提出のリアクションペーパーの内容・記述の的確さを評価する。到達目標（1）の到達度の確認。 なお、第14回にレポート検討会を実施し、レポート内容に対する評価をフィードバックする。</p>						
履修上の注意	2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	毎回プリントを配布する。						
参考書	<p>岸志津江・田中洋・嶋村和恵、『現代広告論 [新版]』、有斐閣、2008年</p> <p>日本パブリックリレーションズ協会編、『改訂版 広報・PR概論』、同友館、2012年</p>						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	宗教と文芸						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ-	A72080
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	宗教が文芸ジャンルにおいて、どのように取り上げられているかを考える。						
授業の概要	前半は、福音書とヨハネの黙示録の内容を学習しながら、それが反映した小説と映画を鑑賞、読解して行く。後半は、禅思想が日本映画にどのように表れているかを、小津安二郎の映画を通して考察する。アニメであれ、ゲームであれ、文芸作品が宗教的な題材と無関係でないことを示す。						
到達目標	① 聖書が現代の文芸に与えた影響を説明できる。【知識・理解】 ② 禅思想と日本映画の関係を説明できる。【汎用的技能】 ③ 文芸作品を宗教的な視点を通して鑑賞することができる。【態度・嗜好性】						
授業計画	1. 導入 2. 福音書 3. 黙示録 4. キリスト 5. アンチキリスト 6. 小説 7. 聖書 8. 小津安二郎 9. 『晩春』 10. 『麦秋』 11. 映画 12. 聖なるもの 13. 『正法眼蔵』 14. 「悟り」 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：福音書、黙示録、禅宗関連文献を読む。（30時間） 事後学習：授業で言及のあった文芸作品を鑑賞する。（30時間）						
授業方法	講義。講義内容について、絶えず問いを出し、質疑応答形式を基本とする。						
評価基準と評価方法	平常点（56％）＝質疑応答の内容を3段階で評価する。 期末テスト（44％）＝授業の内容を理解しているかどうかを問う問題を通して、到達目標の①②が達成されているかどうかを確認する。						
履修上の注意	四つの福音書、ヨハネの黙示録を読んでおくこと。小津安二郎の作品を見ておく。 ドストエフスキーの『悪霊』を読んでおく。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	亀山郁夫『「悪霊」神になりたかった男』（みすず書房） 岡田温司『黙示録』（岩波新書） 頼住光子『道元思想』（NHKブックス）						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	諸芸術の交流／比較文化IA						
担当教員	西岡 恒男					科目ナンバ-	A32010
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	アラン・レネの映画作品における諸芸術の影響とそのユニークな表現方法						
授業の概要	ヌーヴェル・ヴァーグを代表するフランスの映画作家 アラン・レネ (Alain Resnais, 1922-2014) は、絵画や演劇、シュールレアリスムをはじめとする諸芸術の作品をつねに取り込みながら、ユニークな映画を手がけてきたことで知られる。だが、たとえば彼の短編作品『ヴァン・ゴッホ』(1947)におけるように、わざわざ映画の題材にしなくても、絵画は美術館でじかに鑑賞すればよいのではないか、という疑問が浮かぶかもしれない。これに対してレネは、もともとなる作品を彼独自の映像表現に落とし込んで、映画として魅力的になるように制作してきた。それは他の芸術作品を無造作に扱うことではなく、むしろ映画を通じてその価値を最大限に引き出すことであった。そこで本講義では、レネ作品全般を取り上げながら、彼のオリジナリティあふれる映画の表現方法を観察し、映画のなかで諸芸術がどのように活用されるのかを考察する。また、講義の導きの糸として、ドイツの哲学者・ガダマー (Hans-Georg Gadamer, 1900-2002) の美学理論も適宜参照・解説する予定である。						
到達目標	1. アラン・レネのユニークな作風を通じて、映画における表現方法の豊かさを知ることができる。【知識・理解】 2. あるジャンルはつねに他のジャンルと影響関係にあることを理解することで、ものごとを一面的ではなく、多角的・領域横断的に思考する態度を身につけることができる。【態度・志向性】 3. 他者の作品を理解・尊重・称賛することが、他者に対して共感する倫理的な行為であると意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 映画作家 アラン・レネはどういう人物か？ 第2回 「第七芸術」としての映画：諸芸術の交流はどのように行われてきたか？ 第3回 絵画を映画化する：『ゲルニカ』・『ゴッホ』 第4回 映画と彫刻：『彫像もまた死す』 第5回 建築と都市計画 (1)：『ヒロシマ・モナムール』 第6回 建築と都市計画 (2)：『ミュリエル』 第7回 光と色彩の使い方 (1)：『死に至る愛』 第8回 光と色彩の使い方 (2)：『六つの心』『風にそよぐ草』 第9回 レネ作品における影の使い方 第10回 演劇作品を映画化する (1)：『メロ』 第11回 演劇作品を映画化する (2)：『スモーキング』『ノースモーキング』 第12回 演劇作品を映画化する (3)：『あなたはまだ何にも見ていない』 第13回 映画と流行歌：『恋するシャンソン』 第14回 レネ作品と芸術 (1)：画家 スーラと比較する 第15回 レネ作品と芸術 (2)：写真家 アジェと比較する						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回授業前に参考資料を熟読しておくこと。資料は配布するか、松蔭manabaにアップする。授業の理解を深めるために、レネ作品を事前に鑑賞するか、彼の作品について種々の媒体で調べること。(学習時間：2時間) 授業後学習：松蔭manabaを活用したフィードバック学習に取り組むこと。(学習時間：2時間)						
授業方法	映画作品の講義を行う。毎回リアクションペーパーを要求する。また、松蔭manabaでのフィードバック学習について、授業内で小テストを設ける。						
評価基準と評価方法	リアクションペーパー 30%、松蔭manaba 30%、レポート 40% リアクションペーパーでは、授業内容の理解度をチェックする。また、リアクションペーパーに書かれたコメント・質問については、翌週の授業内で解説する。						
履修上の注意	1. 前後半の授業回数15回中、3分の1以上の欠席者は原則単位認定を行わない。 2. 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 3. レポート未提出者は原則単位認定を認めない。 4. レポート提出についての詳細は授業内で説明する。						
教科書	教科書はないが、毎回プリントを配布するのでこれを教科書代わりとする。						
参考書	中条省平『フランス映画史の誘惑』、集英社新書、2003、ISBN 4-08-720179-1 矢橋透『ヌーヴェル・ヴァーグの世界劇場—映画作家たちはいかに演劇を通して映画を再生したか』、フィルムアート社、2018、ISBN:978-4845917143 ミシェル・マリ『ヌーヴェル・ヴァーグの全体像』、矢橋透訳、水声社、2014、ISBN:978-4801000155 ジャック・オーモン他『映画理論講義—映像の理解と探究のために』、武田潔訳、勁草書房、2000、ISBN:978-4-326-80043-8 ジャン・グロンダン『解釈学』、末松壽／佐藤正年訳、白水社(文庫クセジュ1021)、2018、ISBN:978-4-560-51021-6						

参考書	ハンス=ゲオルク・ガダマー『真理と方法 I 哲学的解釈学の要綱』、轡田収他訳、法政大学出版局（叢書・ユニベルシタス）、1986、ISBN:978-4-588-00175-8
-----	--

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西欧芸術と文化／文芸講読IA						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ-	A12010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸批評を通して、絵画の鑑賞と分析の方法を学ぶ。						
授業の概要	小林秀雄の近代絵画を論じた文芸評論を精読する。						
到達目標	① 19世紀のフランス社会の変化が、どのように絵画に影響したか説明できる。【知識・理解】 ② 印象派絵画の美術史的意義を説明できる。【知識・理解】 ③ フランス印象派の絵画とその魅力について説明できる。【態度・嗜好性】						
授業計画	1. 導入と授業計画 2. 評論「モネ」 (1) 光 3. 同 (2) 自然 4. 同 (3) バルビゾン派 5. 同 (4) ターナー、ドラクロワ 4. 評論「セザンヌ」 (1) プロフィール 5. 同 (2) 自然 6. 同 (3) 光 7. 同 (4) 色彩 8. ワグナー 9. ボードレール (1) 象徴主義 10. 同 (2) 近代絵画 11. 同 (3) 近代批評 12. 象徴主義 (1) ワグナー 13. (2) ボードレール 14. (3) モネ 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【学習の必要性】 講義を理解するためには、19世紀フランス絵画に触れておく必要がある。 【事前学習】 ・内容 美術展に通うこと。 TVの美術関連番組（「日曜美術館」など）を見ること。 ・方法 作品を見る。 ・時間 上記全てのことを合わせて30時間以上行う。 【事後学習】 ・内容 事前学習で見た展覧会の作品、TVで紹介されていた作品などを、授業で学んだ方法を通して、鑑賞・考察する。 ・方法 資料（図録など）、参考文献、授業ノートを読む。 ・時間 上記全てのことを合わせて30時間以上行う。						
授業方法	講義 画家や文学者、音楽家の経歴を紹介しながら、テキストを読んで行く。 有名作品の画像を見る。 理解度と知識を問う質問を行い、疑応答形式で授業を進める。						
評価基準と評価方法	平常点56%、テスト44% ・平常点は授業中の質疑応答の内容（正確さ、独自性など）に応じて評価する。 ・筆記試験は、授業内容の理解度を問う問題を出題する。 ・講義内容や評価に関する質問は、授業の前後、及びオフィスアワーで受け付ける。						

履修上の注意	欠席5回で失格とする。
教科書	プリントを配布する。
参考書	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西洋演劇史／文芸特殊講義VA						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバ-	A43040
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	演劇の歴史と現代演劇との関係を学ぶ						
授業の概要	西洋演劇の概説を含め、ドラマとシアターの諸要素を学ぶ。代表的な劇作家の作品を、その時代背景、または上演技術の発展などの要素も含めて紹介し、現在の演劇とも結びつけた考察も行う。						
到達目標	①戯曲と上演の結びつきをよく理解し、演劇学研究に必要な基本的知識を身につけ、実際のろぼーと作成をに応用することができる（汎用的技能） ②演劇の発展の中で登場する重要な演劇人について自分の言葉でしっかり語ることができるようになる（知識・理解）						
授業計画	1. 文芸と演劇について 2. ルネサンス期：シェイクスピア① 『ハムレット』と現代映画 3. ルネサンス期：シェイクスピア② 『ヘンリー5世』と現代映画 4. ルネサンス期：シェイクスピア③ 『ロミオとジュリエット』と現代映画 5. ルネサンス期：シェイクスピア④ グローブ座とその演劇性 6. 中世：大道芸とその現在 ①海外のオーディション番組を見て 7. 中世：大道芸とその現在 ②チャップリンからローワン・アトキンソンへ 8. 近代：イブセン① イブセンについて 9. 近代：イブセン② 『人形の家』に見られるドアのテクニック 10. 近代：自然主義から表現主義までの流れ 11. 近代：象徴主義・不条理演劇 ① 不条理劇について 12. 近代：象徴主義・不条理演劇 ② メーテルリンクとベケットの作劇術 13. 現代：プレヒト① 叙事演劇について 『コーカサスの白墨の輪』の紹介 14. 現代：プレヒト② 現代劇への影響について 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマの概要を調べ、400字程度でまとめておく。（学習時間2時間程度） 授業後学習：授業で取り上げた内容や重要箇所について整理し、授業内で与えられた課題を松蔭Manabaコースコンテンツに提出する。（学習時間2時間程度）						
授業方法	講義：講義で概要を解説し、その後提示されたテーマについてディスカッションを行い理解を深める。授業のまとめとして、補足の解説を行う。また、上演の形式などの解説は、映像資料を用いて解説することが多い。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物（40%）、期末レポート（60%） 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）の内容・記述の的確さを評価する。到達目標②の確認。 期末レポート：指定されたテーマに示された問題を、明確に議論して解決できる能力を評価する。到達目標①の確認 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。レポートの講評は松蔭Manabaで告知する。						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。						
教科書	適宜プリントを配布。						
参考書	参考文献は、テーマごとに講義期間中に適宜紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西洋の近現代演劇／文芸講読VIB						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバ-	A12080
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	戯曲の作劇術を俳優の演技という視点から考える。(レジナルド・ローズ『12人の怒れる男』の作劇術と演技について)						
授業の概要	舞台『12人の怒れる男』の舞台上演台本は、映画『12人の怒れる男』のシナリオを基に構成されている。このクラスでは、1957年製作の映画版を中心に俳優の演技(行動)分析から、どのように人物の性格が読み解けるか検証し、さらには作品のテーマの一つである「民主主義制度」という視点から、冷戦中に製作された1957年版と冷戦後に製作された1997年版を比較する。						
到達目標	①俳優の演技という視点から戯曲分析や上演分析を行う力を身につけ、応用できるようになる。(知識・理解) ②映像言語として俳優の動きの重要性とその役割をしっかりと自分の言葉で語るができるようになる。(汎用的技能) ③社会問題への関心を広げ、現代社会が抱える問題に積極的に参加できるようになる。(態度・志向性)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作品とその背景 2. 映画作品と戯曲について 3. 映画『12人の怒れる男』(1957年版)を見る。① 映像資料を中心に作品を理解する 4. 映画『12人の怒れる男』(1957年版)を見る。② 出来事の経緯についてまとめる 5. 演技を考える: 与えられた状況(演じる役) 6. 演技を考える: 与えられた状況(演技する環境) 7. 演技を考える: キャラクター分析と内容理解① スイッチナイフに関する討論場面より 8. 演技を考える: キャラクター分析と内容理解② トイレ休憩の場面より7番と8番を中心に 9. 演技を考える: キャラクター分析と内容理解③ 前半の2番、5番、11番を中心に 10. 物語の展開と作品の背景について 11. 映画『12人の怒れる男』(1997年版)の特徴と時代背景 12. 映画『12人の怒れる男』(1997年版)を見る。 13. 1957年版と1997年版の登場人物の比較① 11番の比較 14. 1957年版と1997年版の登場人物の比較② 2番、4番、7番を中心に 15. 授業内容の要点のまとめ 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	(授業前準備学習) 各回授業で扱うテキスト(戯曲)を、登場人物の性格に深く関連した言動に注意を払いながら精読し、特に重要と思われる言動を2, 3ピックアップしておく。またなぜそれが重要だと言えるのか理由も述べるができるようにしておく。(学習時間2時間程度) (授業後学習) 授業で取り上げた内容や重要箇所について整理し、授業内で与えられた課題を松蔭Manabaコースコンテンツに提出する。(学習時間2時間程度)						
授業方法	講義: 戯曲と映像の分析方法を提示し、ペアまたはグループで行い、その結果についてディスカッションを行う。時代背景や各場面のテーマに関しても、ディスカッションを中心に進め、その結果を受けて解説講義を行う。戯曲や映像の分析を。ペア又はグループで行い、その結果についてディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物(40%)、期末レポート(60%) 授業内での提出物: 各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント・質問)の内容・記述の的確さを評価する。到達目標②と③の確認。 期末レポート: 指定されたテーマに示された問題を、戯曲と映像分析を中心に明確に議論して解決できる能力を評価する。到達目標①と② 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。レポートの講評は松蔭Manabaで告知する。						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。						
教科書	適宜プリントを配布。						
参考書	『Film Analysis 映画分析入門』マイケル・ライアン、メリッサ・レノス(著)、田畑暁生(翻訳) 『映画のどこをどう読むか(ジブリLibrary—映画理解学入門)』ドナルド・リチー(著)、三木宮彦・司馬叡三(翻訳)、スタジオジブリ						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西洋文芸と映画／文芸講読ⅢⅠⅠⅠ						
担当教員	平川 大作					科目ナンバ	A12030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	西洋文芸と映画 『ロミオとジュリエット』と『ウエスト・サイド物語』						
授業の概要	イギリスの劇作家シェイクスピア（1564-1616）による『ロミオとジュリエット』（Romeo and Juliet）は、恋愛悲劇の人気作として文学史に名を残しつつ、その映画化作品、およびミュージカル『ウエスト・サイド物語』の原作として知られている。この授業では、戯曲テキストを土台に実際にせりふを（日本語で）声に出して読みすすめながら、その映像化作品と比較検討をする。2020年冬に公開が予定されているスティーヴン・スピルバーグ監督の『ウエスト・サイド物語』リメイク作についても言及したい。						
到達目標	恋愛物語の古典を題材に、小説、詩歌、絵画、音楽、演劇、映画、ジャーナリズム、広告などの多様な文芸の諸形態を学び、それらがどのように相互に影響し合いながら発展してきたのかを認識し理解することができる（知識・理解）。古典的恋愛物語の継承と発展を通して、現代社会に生きる自分自身にとって、文芸的営為がどのような意味と価値をもつのかを認識し理解することができる（知識・理解）。恋愛物語を通して個人と社会の衝突について考え、文芸の学びによって身につけた知識とことばの力を自己啓発の基盤とし、生涯にわたって学び続けようという姿勢をもつ（態度・志向性）						
授業計画	第1回：単位認定の説明、戯曲形式の基礎、演劇の作り方、シェイクスピアの紹介 第2回：『ロミオとジュリエット』リーディング実践Ⅰ 第一幕、ゼフィレリ版1968年の該当箇所の鑑賞 第3回： 同作リーディング実践Ⅱ 第二幕、および同上の鑑賞 第4回： 同作リーディング実践Ⅲ 第三幕、および同上の鑑賞 第5回： 同作リーディング実践Ⅳ 第四幕、および同上の鑑賞 第6回： 同作リーディング実践Ⅴ 第五幕、および同上の鑑賞 第7回： シェイクスピア戯曲のまとめ 第8回： 『ロミオ+ジュリエット』（バズ・ラーマン版、1996年）鑑賞 前半 第9回： 同作鑑賞 後半 第10回： ゼフィレリ版とラーマン版の比較検討 第11回： 『ウエスト・サイド物語』（1961）鑑賞Ⅰ 第12回： 同作鑑賞Ⅱ 第13回： 同作鑑賞Ⅲ 第14回： 同作鑑賞Ⅳ 第15回： まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	リーディング実践で扱うテキストは、繰り返し、内容を吟味しながら事前に読んでおくことが必要です。これを予習として各授業毎に2時間費やすことが求められます。またその作業の延長線で、物語の背景にある文化、習慣、時代風俗などで分からないこと、知らないことがあれば、それらを調べて授業で報告できるように準備しておく必要もあります。授業後にはふたたび2時間程度テキストを読み直し、講義内容について自分で復習することが求められます。その延長線として、授業に関連のありそうな小説／映画／マンガ／アニメなどの鑑賞を強く推奨します。これらは楽しさをもって、時間の制限なしに貪欲に取り組んでくれることを期待しています。						
授業方法	戯曲テキストの音読とディスカッションをメインとした講義、授業内で実際に声を出して、せりふを読み上げます。声を出すことが好きな受講生に推奨します。						
評価基準と評価方法	各授業での実践（朗読）60%、積極的な質問および発言20%、学期末レポート20%						
履修上の注意	授業回数3分の2以上の出席が必要。各講義における積極的な実践（朗読）／発表／発言を評価します。授業について質問等はいつでも dhira@otemae.ac.jp までお気軽に。						
教科書	角川文庫『新訳 ロミオとジュリエット』（河合祥一郎役）を各自購入してください。ほかの作品のテキストは授業で適宜、必要な分を配布します。						
参考書	上記指定以外の訳者による『ロミオとジュリエット』						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸IIA						
担当教員	釣 馨・宮田 玲					科目ナンバ-	A0206A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典となっている世界の文学や芸術作品について学ぶ。 後半担当者・宮田玲のテーマは、「古代オリエントの文芸作品」						
授業の概要	2名の教員によるオムニバス講義である。各担当者の授業の概要は以下の通り。 担当者・宮田玲 古代メソポタミア、シリア・パレスティナ、エジプトでは多くの文芸作品が生み出された。ここには、いかに古くから人類が文字を用い、文芸作品を残してきたかをみることができる。講義では、古代メソポタミア（バビロニア、アッシリア）と古代エジプトから代表的な物語をいくつか取り上げ、時代背景の解説をまじえて読みすすめていく。また、当時の文字である楔形文字やヒエログリフのほか、文芸作品のテーマとかかわる美術作品についても紹介する。						
到達目標	世界の古典的な作品の紹介と解説を受けて、その時代と文学の特徴や傾向を関連づけることができるようになる。【知識・理解】 テキストを自分なりに読み解き、鑑賞することができるようになる。【知識・理解】						
授業計画	担当者・宮田玲（全体を通して第8回目が、後半部の第1回となる） 第8回 古代メソポタミアの風土と歴史。 第9回 エヌマ・エリシュ―バビロニア創造神話― 第10回 アトラ・ハシス ―大洪水物語― 第11回 ギルガメシュ叙事詩 ―英雄ギルガメシュの生と死― 第12回 小テスト。ハンムラビ法典 ―古代の判決集― 第13回 古代エジプトの風土と歴史。 第14回 古代エジプトの神話。ヒエログリフ（エジプト聖刻文字）と芸術表現。 第15回 アテン賛歌―太陽神信仰―						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	担当者・宮田 授業前準備学習：配布資料の次回授業で扱う箇所を熟読し、前回授業との関連性を予習してくる。（学習時間2時間） 授業後学習：配布資料と授業時配布プリントに従って授業の要点を文章でまとめる。（学習時間2時間）						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	担当者・宮田 レポート60%：授業で取り上げた内容とかかわる課題をいくつか提示して、授業の理解度を評価する。 平常点40%：小テスト、文芸作品の朗読による授業参加、また、適宜レスポンスペーパーの提出を求める。 レスポンスペーパーや質問等へのフィードバックは次の授業内で行なう。						
履修上の注意	担当者・宮田 補足のプリントを配布する。出席者のみ受け取ることができる。						
教科書	担当者・宮田 講義開始日に配布する資料「世界の文芸II」。随時、補足のプリントを配布する。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸ⅡB						
担当教員	木下 昌巳・西岡 恒男					科目ナンバ-	A0206B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	【前半】担当者：西岡 恒男 「『美女と野獣』の起源」 【後半】担当者：木下昌巳 「古代ギリシャの悲劇と文芸」						
授業の概要	【前半】担当者：西岡 恒男 ディズニー映画で有名な恋愛物語「美女と野獣」は、1756年にフランスでポーモン夫人が書いた教訓的なおとぎ話が原作とされる。これを起源として、現在までさまざまなバージョンの再話作品や映画化作品が登場しているが、実はこの原作にも、1740年にヴィルヌーヴ夫人が書いた妖精物語「美女と野獣」という原作がある。さらに時代を遡れば、古代ローマの作家・アプレイウスが書いた「クビドーとプシュケー」がこの物語の起源であるとするのが民話研究での定説だ。 つまり、私たちがよく知る「美女と野獣」は、1500年以上の年月をかけて成立したといえる。そこで本講義では、「クビドーとプシュケー」以降、フランスを中心として「美女と野獣」の成立までに影響を及ぼしたとされる作品を取り上げ、各作品の登場人物やテーマの変遷を比較する。くわえて、過去の物語を「解釈」することで新たな作品をつねに生み出し続けてきた人間の営為についても考察する。 【後半】担当者：木下 昌巳 古代ギリシアの文化は、ヨーロッパにおいては、キリスト教と並びヨーロッパの文化全体の源泉というべき地位を担い、諸方面にわたって圧倒的な影響を与えてきた。文芸においても、古代ギリシアにおいて書かれた諸作品は、近代に至るまで古典的規範として読まれ続け、時代時代の精神を吹き込まれながら、現代にいたるまで、各時代の作家たちにインスピレーションを与え続けてきたのである。この講義では、古代ギリシアの文芸作品のなかから、その代表的傑作ともいえるべき二つの作品、ソポクレスの悲劇『オイディプス王』とプラトンの対話篇『饗宴』を取り上げ、その内容に対する解説と鑑賞をおこなう。						
到達目標	【前半】担当者：西岡 恒男 1. 古代ローマから18世紀までのフランスを中心としたヨーロッパの文学作品の変遷をたどり、その表現の豊かさを知ることができる。【知識・理解】 2. 私たちがよく知る物語をあらためて問い直し、深く掘り下げることの重要性を理解し、その方法論を使用することができる。【汎用的技能】 3. 各作品の作り手の解釈の多様性を知ること、文学作品を多角的に考察する態度を身につけ、実践することができる。【態度・志向性】 【後半】担当者：木下 昌巳 1. 【知識・理解】古代ギリシアの文学に関する基本的な知識を身につけ、西洋の文芸の出発点を知ることができる。 2. 【汎用性技能】西洋の文化、とくに文学や芸術を理解するためには、古代ギリシアの文化に関する知識が不可欠である。古代から現代にいたるまでの西洋の文芸の背景をなしている古代ギリシアの文学を知ることによって、ひろく西洋の文学全体に対する理解を深めることができるようになる。 3. 【態度・志向性】「文芸」と言えば、現代人の多くは「小説」という形式で書かれた作品を思い浮かべるかもしれない。しかし、「小説」という形式は近代になってとくに発展した文芸の一ジャンルである。古代ギリシアの文芸を通して、「小説」に限られない文芸というものに対する視野を広め、様々なジャンルの文芸に対する鑑賞力を高めることができる。						
授業計画	【前半】担当者：西岡 恒男 第1回 「美女と野獣」の原作を知る：ポーモン夫人版 第2回 「美女と野獣」の起源：アプレイウス「クビドーとプシュケー」 第3回 フランスにおける「クビドーとプシュケー」の展開：モリエール『プシシェ』 第4回 中世フランスの異類婚姻譚：クードレット『メリュジーヌ』 第5回 イタリアからの影響：バジレ「蛇」（『ペンタメローネ』より） 第6回 「美女と野獣」への直接的影響：ペロー「巻き毛のリケ」・ドーノワ夫人「羊」 第7回 オリジナル版「美女と野獣」を知る：ヴィルヌーヴ夫人版 【後半】担当者：木下 昌巳 第8回 古代ギリシア文化の全体像 第9回 ギリシア文学の発生と展開 第10回 ギリシア悲劇の三大詩人 アイスキュロス・ソポクレス・エウリピデス 第11回 ソポクレスの『オイディプス王』 背景とスフィンクス伝説 第12回 ソポクレスの『オイディプス王』（前半） 日本語による上演の鑑賞と解説（DVDによる） 第13回 ソポクレスの『オイディプス王』（後半） 日本語による上演の鑑賞と解説（DVDによる） 第14回 プラトン『饗宴』のエロス論 アリストパネスのエロス論 第15回 プラトン『饗宴』のエロス論 ソクラテスのエロス論						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【前半】担当者：西岡 恒男 授業前準備学習：各回講義前に資料を熟読しておくこと。資料は製本して配布する（学習時間：2時間） 授業後学習：松蔭manabaを活用したフィードバック学習に取り組むこと（学習時間：2時間） また、「美女と野獣」の映画化作品も多数存在するので、授業の理解を深めるために鑑賞してほしい。 【後半】担当者：木下 昌巳 授業前準備学習：各回講義前に授業回のテキストを熟読しておくこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：松蔭manabaに授業で使用したスライドのファイルをアップロードするので、それも参照しながらテキストの内容を復習すること。（学習時間：2時間）						

授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で使用した悲劇のDVDは大学の図書館にも収蔵されているので、各自すすんで鑑賞してほしい。
授業方法	<p>【前半】担当者：西岡 恒男 文学作品の講義、毎回リアクションペーパーを要求する。また、手短にはなるが「美女と野獣」の映画化作品も毎週1本紹介する。</p> <p>【後半】担当者：木下 昌巳 講義と悲劇上演の鑑賞（DVDによる） 毎回のリアクションペーパーを提出してもらう。</p>
評価基準と評価方法	<p>【前半】担当者：西岡 恒男 リアクションペーパー 30%、松蔭manaba 30%、レポート 40% リアクションペーパーでは授業内容の理解度をチェックする。また、リアクションペーパーに書かれたコメント・質問については翌週の授業内で解説する。</p> <p>【後半】担当者：木下 昌巳 リアクションペーパー：30% 授業終了後のレポート：70%</p>
履修上の注意	<p>【前半】担当者：西岡 恒男 1. 前後半の授業回数15回中、3分の1以上の欠席者は原則単位認定を行わない。 2. 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 3. レポート未提出者は原則単位認定を認めない。 4. レポート提出についての詳細は授業内で説明する。</p> <p>【後半】担当者：木下 昌巳 1. 前後半の授業回数15回中、3分の1以上の欠席者は原則単位認定を行わない。 2. 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 3. レポート未提出者は原則単位認定を認めない。 4. レポート提出についての詳細は授業内で説明する。</p>
教科書	<p>【前半】担当者：西岡 恒男 授業時に授業用テキストを製本して配布する。</p> <p>【後半】担当者：木下 昌巳 授業時に授業用テキストを製本して配布する。</p>
参考書	<p>【前半】担当者：西岡 恒男 ポーモン夫人『美女と野獣』、村松潔訳、新潮文庫、2017、ISBN：978-4-10-220086-5 ガブリエル=シュザンヌ・ド・ヴィルヌーヴ『美女と野獣 [オリジナル版]』、藤原真実訳、白水社、2016、ISBN：978-4-560-09525-6 アーブレイユス「クピドーとプシケ」、『黄金の驢馬』所収、呉茂一/国原吉之助訳、岩波文庫、2013、ISBN：978-4-00-357001-2 モリエール「プシケ」、『モリエール全集8』所収、秋山伸子訳、臨川書店、2001、ISBN：978-4-653-03718-7 クードレット『西洋中世奇譚集成 妖精メリュージュ物語』、松村剛訳、講談社学術文庫、2010、ISBN：978-4-06-292029-2 ジャンバティスタ・バジーレ「蛇」、『ペンタメローネ 五日物語』（上）所収、杉山洋子/三宅忠明訳、ちくま文庫、2005、ISBN：978-4-480-42131-9 ストラパローラ「豚王子」、『愉しき夜：ヨーロッパ最古の昔話集』所収、長野徹訳、平凡社、2016、ISBN：978-4-582-83730-8 シャルル・ペロー「巻き毛のリケ」、『完訳 ペロー童話集』所収、新倉朗子訳、岩波文庫、1982、ISBN：978-4-00-325131-7 Marie-Catherine d'Aulnoy, 《Le Mouton》, in Les Contes des Fées, 1698 (初出) ベッツィ・ハーン『美女と野獣 [テキストとイメージの変遷]』、田中京子訳、新曜社、1995、ISBN：978-4-7885-0526-1 エリック・ノイマン『アモールとプシケ』、河合隼雄監訳、紀伊國屋書店、1973、ISBN：978-4-314-00103-8</p> <p>【後半】担当者：木下 昌巳 ソポクレス『オイディプス王』（藤澤令夫訳）、岩波文庫、ISBN：978-4003210529 プラトン『饗宴』（森進一訳）、新潮文庫、ISBN：978-4102027028 『ギリシア文学を学ぶ人のために』、松本仁助、岡道夫、中務哲郎編、世界思想社、ISBN：978-4790703952</p>

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	セリフ表現と演技法／文芸との触れ合いⅡA						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバ-	A22030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	『夏の夜の夢』のセリフ表現から、演技の基本的要素を理解し表現力を高める。						
授業の概要	実際に声に出してシェイクスピアの『夏の夜の夢』（『真夏の夜の夢』）の戯曲を読んで、小説と戯曲の違いの理解を深める。また、実際の舞台上映や映画の映像資料を通して、この劇を上演史を紹介する。そのうえでセリフ表現から演技や発声の基本を学び、声を使った表現力を高める。また俳優の演技という視点から映像や舞台分析できる能力の向上を目指す。						
到達目標	①戯曲のセリフを明瞭にわかりやすく読み聞かせることができる。(汎用的技能) ②『夏の夜の夢』を通してシェイクスピア劇の基本的な特徴を説明することができる。(知識・理解) ③演技体験から、演劇に対する興味・関心をより具体的なものとして意識することができる。(態度・志向性)						
授業計画	1. インTRODクシヨン：授業の進め方、グループの組み分け 2. 1幕：オープニングの人間関係とシェイクスピア劇 3. 1幕：職人たちとエリザベス朝の演劇 4. 2幕：妖精の世界とギリシア神話 5. 2幕：恋人たちのセリフ表現 6. 3幕：職人たちの性格描写 7. 3幕：タイターニアとボトムスの夢の世界 8. 4幕：シェイクスピア劇の特徴としての夜明け。 9. 4幕：この場面の和訳を強調するためにはどうしたらよいか。 10. 5幕：劇中劇の効果について 11. 5幕：パックの独白 12. プレゼンテーションに向けて：配役決めと狙いを明確にする。 13. プレゼンテーションに向けて：効果的な表現方法 14. 各グループによる発表 15. 授業の総括、要点のまとめ。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	（授業前準備学習）各回授業で扱うテキスト（戯曲）を読み、理解できない言葉をしっかり調べて精読し、小さな声で音読しながら発話が難しい箇所を確認しておく。また、授業で提示された課題のテーマについても事前に調べておく。（学習時間2時間程度） （授業後学習）授業で取り上げた内容や重要箇所について整理し、授業内で与えられた課題を松蔭Manabaコースコンテンツに提出する。（学習時間2時間程度）						
授業方法	講義：各回で取り上げられるテキスト（戯曲）の1場面を、グループに分かれて役を振り音読する。音読後に、この場面の登場人物の目的、そしてそれを表現する効果的な読み方をディスカッションする。この結果を受けて、必要な知識、情報などの解説を映像資料なども使いながら講義する。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物（40%）、最終プレゼンテーション（30%）とレポート（30%） 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）の内容・記述の的確さを評価する。到達目標②と③の確認。 期末プレゼンテーションとレポート：『夏の夜の夢』の一場面をグループで演じる。その際にどのようなセリフ表現の工夫を試みたか、そのためにどのような取り組みをしたかをレポートについて提出する。到達目標①と②。課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。プレゼンテーションの講評は最終の授業で行い、レポートに関しては松蔭Manabaで告知する。						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、最終プレゼンテーションとレポート提出の資格を失うものとする。						
教科書	ウィリアム・シェイクスピア/小田島雄志訳『夏の夜の夢』白水社、1983						
参考書	佐和田敬司、藤原慎太郎、冬木ひろみ、丸本隆、八木斉子（編）『演劇学のキーワード』ペリかん社、2007						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A04070
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文の作成						
授業の概要	メディア文化をテーマとする卒業研究および卒業論文の作成にむけた指導を行う。						
到達目標	(1) 自分で問いを立て、調べ、考察し、卒業論文を書き上げることができる。【知識・理解】 【汎用的技術】 (2) 研究の仕方を学ぶことができる。【態度・志向性】						
授業計画	<p>前期</p> <p>1 イン트로ダクション</p> <p>2 卒論の書き方①： 卒論とは？</p> <p>3 卒論の書き方②： 資料収集の方法</p> <p>4 卒論の書き方③： アウトラインの作成</p> <p>5 卒論の書き方④： パラグラフを書く</p> <p>6 卒論の書き方⑤： 文章の形式を守る</p> <p>7 卒論の書き方⑥： 文章をきれいに整える</p> <p>8 卒論の書き方⑦： 文章を推敲する</p> <p>9 論文講読</p> <p>10 卒論テーマ・アウトラインの発表①</p> <p>11 卒論テーマ・アウトラインの発表②</p> <p>12 卒論テーマ・アウトラインの発表③</p> <p>13 卒論テーマ・アウトラインの発表④</p> <p>14 卒論テーマ・アウトラインの発表⑤</p> <p>15 夏休み期間に向けた全体指導</p> <p>後期</p> <p>16～20 研究状況の報告</p> <p>21～28 個別指導による論文作成</p> <p>29～30 提出に向けた最終確認</p> <p>・なお、授業の進展にあわせて内容を変更する可能性がある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習： 発表を担当するときは、文献探索、資料収集、文献精読を踏まえたうえで、発表レジュメを作成する。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習： 発表後のディスカッションの内容を整理し、卒業論文に反映させる。（学習時間：1時間）</p> <p>また、授業前後を通して卒業論文の執筆に取り組む。</p>						
授業方法	<p>演習： 卒業論文の内容発表およびディスカッションを行う。また、個別指導による指導を実施する。</p> <p>講義： 卒業論文の作成方法に関する解説を行う。</p>						
評価基準と評価方法	<p>卒業論文 80%： 卒業論文で扱った内容を理解しているか、および、形式を守って論文が書けているか、を評価する。また、卒業論文を通じた興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。</p> <p>授業態度 20%： 発表の準備度合いおよびディスカッションへの参加度を評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。</p>						
履修上の注意	<p>教員への進捗状況の報告、相談などコミュニケーションを欠かさないこと。</p> <p>自分が発表する日に無断欠席をすることは厳禁。</p> <p>2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。</p>						
教科書	授業中に指示する。						
参考書	授業中に指示する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバ-	A04070
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究・論文作成の指導						
授業の概要	演劇や映画を中心に個々人が関心のあるテーマを選んで問いを立て、それに関する資料収集、分析・検証、そして卒業論文の作成指導を行う。						
到達目標	①情報を主体的・批判的に受容し、論理的に判断する能力、自分の考えを的確に再現する高度なコミュニケーション能力の習得（汎用的技能） ②自立した人間としての自己の確立と、身につけた知識を地域・社会に還元し他者と調和して生きる姿勢の習得（態度・志向性）						
授業計画	<p>前期</p> <p>1. 卒業論文作成の進め方 2. 卒業論文の書き方・作成の仕方① 3. 卒業論文の書き方・作成の仕方② 4～6. 卒業論文に関する個人発表：文献の要約 7. 批評の方法論① ジェンダー論 8. 批評の方法論② 間テクスト性 9～14. 卒業論文に関する個人発表：主要テキストや上演作品の選定 15. 問題の絞り込みと夏休み期間の研究計画</p> <p>後期</p> <p>16. 夏休み期間の研究状況の報告 17～22. 卒業論文の中間発表 23～25. 個別指導による研究の展開と執筆 26. 初稿の提出 27～28. 提出前の点検 29～30. 提出論文の講評と再提出指導</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：前期の授業では卒業論文の書き方や論文作成に有効となる批評理論の文献や資料を事前にまとめておく。 授業前・後学習：卒論のテーマを決定するために必要な資料収集や参考文献の購読などは、できる限り集中的に時間をかけて行ってください。資料収集だけでもかなり時間がかかります。夏休み以降の卒論作成においても、週3日くらいは集中的にしっかりと作り作成に当たってください。（学習時間6時間程度）						
授業方法	演習形式及び個別指導。演習では文献の要旨発表から卒業論文の中間発表などを行い、個別指導で論文作成の細かな指導を行う。						
評価基準と評価方法	中間発表20%、卒業論文80% 中間発表：情報を収集能力、卒論の構成の仕方、自分の考えを表現する能力の評価。到達目標の①と②の到達度を確認する。評価に関しては、発表後個別に行う。 卒業論文：自分の考えを論理的にまとめるために、的確な構成と必要な情報収集が的確になされているかを評価する。到達目標の①の到達度を確認する。評価に関しては、学科の複数の教員にも依頼する。						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。						
教科書	プリントを適宜配布する。						
参考書	各自のテーマに応じて決定していく。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	東西芸術と文化／文芸講読IB						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ-	A12020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸批評を通して、絵画と音楽の鑑賞法を学ぶ。						
授業の概要	江戸時代の絵画と18・19世紀ヨーロッパの音楽を論じた小林秀雄の文芸評論を精読する。						
到達目標	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーテとモーツァルトの関係について説明できる。 ・狩野派について説明できる。山水画について説明できる。 <p>【態度・志向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロマン主義芸術の所産に視野を広げることができる。 ・日本絵画の所産に視野を広げることができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入と授業計画、発表者の決定 2. 評論「モーツァルト」 (1) ゲーテとモーツァルト 3. (2) ゲーテとベートーベン 4. (3) 「ファウスト」 5. 評論「鉄斎」 (1) 南画 6. (2) 水墨画 7. (3) 神仙思想 8. 評論「光悦と宗達」 (1) 光悦のプロフィール 9. (2) 琳派と歌巻 10. (3) 古今和歌集と新古今和歌集 11. (4) 宗達のプロフィール 12. (5) 桃山期の美術と狩野派 13. 評論「雪舟」 (1) プロフィール 14. (2) 「山水長巻」 15. まとめとテスト 						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>【必要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロマン主義の作品を理解するために、美術展に通い、当時の音楽を聴くこと。また、TVの美術関連番組、音楽関連番組(「日曜美術館」「ららら、クラシック」など)を見ること。 <p>【事前学習】(30時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モーツァルトの音楽を聴く。「ファウスト」を読む。 ・光悦と宗達の作品を鑑賞する。水墨画を見る。 <p>【事後学習】(30時間)</p> <p>授業で学んだ方法を通して、ロマン主義の作品、雪舟、光悦、宗達の作品が、どのような意味を持っているかを考える。それと共に、これらの芸術家に関する参考文献を読む。</p>						
授業方法	<p>講義</p> <p>画家や文学者、音楽家の経歴を紹介しながら、テキストを読んで行く。 理解度と知識を問う質問を行い、疑応答形式で授業を進める。</p>						
評価基準と評価方法	<p>平常点56%、テスト44%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点は授業中の質疑応答の内容(正確さ、独自性など)に応じて評価する。 ・筆記試験は、授業内容の理解度を問う問題を出題する。 ・講義内容や評価に関する質問は、授業の前後、及びオフィスアワーで受け付ける。 						
履修上の注意	欠席5回で失格とする。						
教科書	プリント配布。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	東西芸術の文化史／比較文化IB						
担当教員	上久保 真理					科目ナンバ-	A32020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	異質な文化が出会うとき、新しいものが生まれる。						
授業の概要	「芸術」という概念はキリスト教西欧で生まれ、西欧主導で発展したと言える。「西」から見て異質なものは「東」と呼ばれ、その異質なもの同士が出会うとき、新たな文化的展開の可能性が生まれる。西欧はどのように東方と対峙し、日本のわたしたちはどのように西洋を受け止め、向き合ってきたのかを、幾つかの歴史的場面を取り上げて検証する。						
到達目標	1) 東西芸術の歴史の中で、異なる文化・伝統がどのように出会い、互いに影響しあって新たな文化的展開を生み出してきたかを学び、理解することができる。【知識・理解】 2) わたしたちのものの見方が文化・伝統によって裏打ちされており、その変化がわたしたちのものの見方を変えうることに気づく。【知識・理解】 3) 異文化との出会いがさらなる文化的発展につながりうることを意識し、積極的に学び、伝える姿勢をもつ。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 東と西 第2回 ギリシャは西方か？ 第3回 ギリシャ的世界観とローマ的世界観 第4回 キリスト教世界における東方と西方 第5回 異教徒たち 第6回 まだ見ぬ東方世界へ 第7回 日本と南蛮 第8回 旅・景色・庭園ーピクチャレスクー 第9回 ロマン主義ーエキゾチックなものへー 第10回 シノワズリー・ジャポニズム 第11回 ジャポニズムと印象主義 第12回 プリミティヴィズムー間文化的な問いー 第13回 西洋美術を纏うー東洋のわたしー 第14回 映画の中の異文化 第15回 日本から海外へ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業計画の各回のテーマについて、各自が前もってインターネットで検索、図書室で調べてみるなどして予習を行うこと（学習時間2時間）。 授業後学習：授業で取り上げた箇所の時代背景や、授業で興味を持った文化や作品・作家などについて、各自がさらに掘り下げて調べてみる（学習時間2時間）。 授業中に告知する展覧会などへ積極的に足を運び、生の作品に触れること。紹介した図書や映画も見てみて欲しい。						
授業方法	講義形式。 スライド、DVDなどの使用。 簡単なワークショップ、個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションも取り入れる。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合によって評価。						
履修上の注意	私語、携帯やメールの使用、授業中の出入りは慎むこと。 希望があれば費用各自負担・自由参加で学外見学することも可能。 授業の進行状況等により、毎回の授業計画に多少の変更の可能性もある。 ※質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	トピックの文化史／比較文化ⅡⅡA						
担当教員	植 朗子					科目ナンバ-	A32040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「運命と運」（幸運、不運、縁）にまつわる比較文化						
授業の概要	伝承（昔話、神話、伝説、メルヘン、ファンタジー）における「運命と運」（幸運、不運、縁）をテーマにします。物語や言い伝えの中には、「運の良い人」「不運な人」、「運命の転換のきっかけ」、「不思議な縁」にまつわる話が数多くあります。古今東西の話、身近な話から、「運」にまつわるエピソードの話型とモチーフを分析します。						
到達目標	1. 比較文化をテーマとした多彩な文芸作品の形態を理解し、それらと現代社会における関わりと意義について説明できる。【知識・理解】 2. 文化的所産である多様な芸術作品に触れ、比較文化的に解釈し、その検討結果をレポートにまとめることができる【汎用的技能】 3. 人間文化の多層性について、様々な文芸作品から思考し、生涯の学びへの姿勢として身につけることができる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 インTRODクッション、主旨説明、成績評価についての説明 第2回 幸運・不運とは何か-比較文化研究の視点から 第3回 「運」をもたらす存在-神々、精霊、悪魔 第4回 「運」と人間-日本とドイツ語圏の伝承 第5回 「運」と「美」「醜悪」(1)-映画『オペラ座の怪人』 第6回 「運」と「美」「醜悪」(2)-映画『美女と野獣』 第7回 「運命」と生命(1)-映画『コンスタンティン』 第8回 「運命」と生命(2)-映画『HACHI』 第9回 これまでのまとめ、質疑応答 第10回 「運命」をかえる者(1)-神話的世界と英雄 第11回 「運命」をかえる者(2)-アニメ『鬼滅の刃』 第12回 「運命」をかえる救済者(1)映画『マイ・インターン』 第13回 「運命」をかえる救済者(2)映画『ペイマックス』 第14回 レポート提出と質疑応答 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【授業前準備学習】配布した資料をよく読み、ノートにまとめること。（疑問点は講義の中で質問して下さい。） 授業では、毎回参考文献を資料として配布します。また、授業で紹介した映像資料や、小説、漫画などに関する論文等についても、下調べするようにしてください。（学習時間2時間） 【授業後学習】授業での板書、問題提起した箇所について、整理し確認すること。各授業での要点についてまとめ、「文化を比較する」際の注意点について留意し、授業でのテーマにそった形で整理しておくこと。（学習時間2時間）						
授業方法	講義。視聴覚教材を見たあとに、各自の感想と意見交換を行います。疑問点や、自分の感想を積極的に伝えようとする姿勢を見せて下さい。受講生のみさんのそれぞれの視点をいかした参考文献などをフィードバックとして紹介します。コメントカードも使用しますので、発言ができなかった場合は、コメントカードも利用して下さい。（メールでの質問も受け付けます）						
評価基準と評価方法	レポート70% 平常点30%（コメントペーパー、授業中の質問等を含む）						
履修上の注意	1. 授業中は授業に関係のない物を机の上に置かないように注意して下さい。遅刻は2回で欠席扱いとなります。授業回数の3分の1以上の欠席は、定期試験（レポート提出とする）の資格を失うため、理由のある遅刻、欠席は、差し障りにない範囲で申し出て下さい。自分の遅刻・欠席回数については、自分自身でもメモ等残して下さい。 2. 授業中に配布した資料は自身で保管し、欠席した次の回の授業中に取りに来て下さい。不定期にコメントペーパーを配布します（出席者のみ）。						
教科書	授業中に資料を配布します。（レポート作成等で使用するため、各自保存すること）						
参考書	授業中に資料を配布します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	日本の近現代演劇／文芸講読VIA						
担当教員	枡井 智英					科目ナンバ-	A12070
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の商業演劇とシェイクスピア劇への関心を高め、上演に結びつけて戯曲を読む力をつける。						
授業の概要	日本の代表的劇作家井上ひさしの『天保十二年のシェイクスピア』を読む。場面ごとに戯曲を分析し、劇上演でどのように表現されているかについて二つの映像記録、井上ひでのり演出作品（2002年）と蜷川幸雄演出作品（2005年）を参考に検証していく。また二つの作品の舞台演出にみられる俳優の演技や舞台美術などを比較してそれぞれの作品の特徴を分析し、それぞれの作品のテーマの扱いの違いについても考えてみる。						
到達目標	①『天保十二年のシェイクスピア』の内容をしっかりと理解し、またシェイクスピアの有名な戯曲に関する知識も増やし、更には戯曲と小説の違いをしっかりと自分の言葉で語るができるようになる。（知識・理解） ②俳優の動きや舞台美術から上演分析する方法を学び、それを様々な舞台で応用できるようになる。（汎用的技能） ③日本のシェイクスピア作品や小劇場公演にも関心を高め、これらの話題に関して積極的に議論することができるようになる。（態度・志向性）						
授業計画	1. 作品の背景とその内容 2. 戯曲にある約束事 3. 第1幕1～2とその上演 4. 第1幕3～4とその上演 5. 第1幕5～7とその上演 6. 第1幕8～11とその上演 7. 第1幕12～13とその上演 8. 第2幕14～15とその上演 9. 第2幕16～17とその上演 10. 第2幕18～19とその上演 11. 第2幕20～21 12. まとめ①象徴としての人物 13. まとめ②劇におけるサスペンス 14. まとめ③言葉をアクションに 15. まとめ④テーマと批評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテキスト（戯曲）を、登場人物の性格に深く関連した言動に注意を払いながら精読し、特に重要と思われる言動を2、3ピックアップしておく。またなぜそれが重要だと言えるのか理由も述べるができるようにしておく。（学習時間2時間程度） 授業後後学習：授業で取り上げた内容や重要箇所について整理し、授業内で与えられた課題を松陰Manabaコースコンテンツに提出する。（学習時間2時間程度）						
授業方法	講義：戯曲と映像の分析方法を提示し、ペアまたはグループで行い、その結果についてディスカッションを行う。時代背景や各場面のテーマに関しても、ディスカッションや各場面を中心に進め、その結果を受けて解説講義を行う。戯曲や映像の分析を。ペア又はグループで行い、その結果についてディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物（40%）、期末レポート（60%） 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）の内容・記述の的確さを評価する。到達目標①と③の確認。 期末レポート：指定されたテーマに示された問題を、戯曲と映像分析を中心に明確に議論して解決できる能力を評価する。到達目標①と② 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。レポートの講評は松陰Manabaで告知する。						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。						
教科書	適宜プリントを配布。						
参考書	『井上久の劇世界』扇田昭彦（著）、白水社 『現代演劇大全 いま観るべき舞台の全てがわかる』マガジンハウス（編集）、マガジンハウス						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	日本文芸と映画／文芸講読ⅡIB						
担当教員	石塚 洋史				科目ナンバ-	A12040	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	原作のある日本の映画作品の鑑賞と、作品の分析、原作との比較を通して、映画と文芸の表現の違いについて考察します。						
授業の概要	本講義では原作のある日本の映画作品を鑑賞し、作品の分析、原作との比較を行います。文芸作品が映画化された際、その文芸作品の内容が全て映像となるわけではなく、またその文芸作品にない要素が映画作品の中に加えられることもあります。そしてそれ以上に重要なのは、語り方そのものの変化です。文芸作品の語り口に、映画作品が及ばないことは少なくありません。しかし時には映画作品は文芸作品とは別次元の表現によって、観客の心を捉えます。本講義では映画ならではの表現を理解することに重点を置きます。						
到達目標	(1) 映画作品の構成を理解することができます【知識・理解】。 (2) 映画作品の細部について、その意味や効果を理解することができます【知識・理解】。 (3) 映画作品とその原作を比較し、両者の表現の違いを理解することができます【知識・理解】。 (4) 映画と文芸に関する視野を拡大し、興味を深めることができます【態度・志向性】。						
授業計画	第1回 視点と話法1 映画の技法 第2回 視点と話法2 映画の構成 第3回 視点と話法3 原作との比較 第4回 社会の描き方1-1 映画の技法 第5回 社会の描き方1-2 映画の構成 第6回 社会の描き方1-3 原作との比較 第7回 台詞1 映画の技法 第8回 台詞2 映画の構成 第9回 台詞3 原作との比較 第10回 社会の描き方2-1 映画の技法 第11回 社会の描き方2-2 映画の構成 第12回 社会の描き方2-3 原作との比較 第13回 家族の描き方1 映画の技法 第14回 家族の描き方2 映画の構成 第15回 家族の描き方3 原作との比較						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習 授業計画の「映画の技法」の回の授業前：「視点と話法」、「社会の描き方」、「台詞」、「家族の描き方」それぞれのテーマに関して、過去に鑑賞した映画の中で印象に残っている表現について自分なりに考えて下さい（学習時間：90分）。 授業計画の「映画の構成」の回の授業前：前回の授業内に鑑賞した映画について、今後の構成を予測して下さい（学習時間：90分）。 授業計画の「原作との比較」の回の授業前：できる限り原作を読み、映画との比較を自分なりに行ってください（学習時間：90分）。 授業後学習 授業計画の「映画の技法」、「映画の構成」の回の授業後：授業内に鑑賞した映画に関して、自分なりの疑問点、注目点をまとめて下さい（学習時間：90分）。 授業計画の「原作との比較」の授業後：授業内に鑑賞した映画と原作とを比較し、その表現の違いについてまとめて下さい（学習時間：90分）。						
授業方法	講義：テーマに関する映画作品を鑑賞し、担当教員が解説します。第3回、第6回、第9回、第12回、第15回にはレポートを提出していただきます。						
評価基準と評価方法	授業内に提出するレポート50%、期末レポート50% 授業内に提出するレポート：授業で取り上げられた作品について、自分の考え、気になったこと、疑問点などが記述されているかを評価します。到達目標（1）、（2）、（3）、（4）に関する到達度の確認。 期末レポート：授業で取り上げられた作品の表現について、自分の考えが記述されているかを評価します。到達目標（1）、（2）、（3）、（4）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 授業内に提出するレポート：次回の授業でいくつかを紹介し、疑問点についてはできる限り答えます。ただし第15回に提出されたレポートについては、松蔭manabaでいくつかを紹介し、疑問点についてはできる限り答えます。 期末レポート：レポートの解説を松蔭manabaで告知します。						
履修上の注意	授業内に提出するレポートと期末レポートを重視します。授業内に提出するレポートには、疑問点を書いて下さっても構いません。授業内に提出するレポートについては、受講者に紹介することによって授業が充実すると担当教員が判断したものについては、匿名で紹介し、疑問点についてはできる限りお答えします。ただし匿名であっても記述者が紹介してほしい場合は紹介しませんので、その旨を記述して下さい。						

教科書	なし。
参考書	授業内に適宜紹介します。

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	ファンタジーの世界						
担当教員	釣 馨					科目ナンバ-	A72090
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファンタジーの起源と構造、およびファンタジーの現代性について理解する						
授業の概要	ファンタジーは、神話や伝承から得た着想をテーマに掲げ、魔法などの空想的な要素が一貫性のある設定として導入されている。一方でファンタジーは架空の世界にもかかわらず、その世界には作品が書かれた地域やその時代の文化や思想が背景にある。それらを3大ファンタジー（『指輪物語』『ナルニア国物語』『ゲド戦記』）と現代の新しいファンタジーの中に読み取りつつ、比較、整理する。						
到達目標	ファンタジーの起源や構造、またそれらが時代を反映しながらどのように変化してきたのかを理解できる。またファンタジーが映画やアニメのような新しいジャンルにどのように浸透し、活用されているかを理解できる。最終授業の筆記試験でファンタジーに対する自分なりの理解と考えをまとめることができる。最終的には、ファンタジーというジャンルを通して、多様な媒体によるコミュニケーションの諸相に触れることで、深い知識を身につけ、異文化・多文化の存在と価値を十分に理解することができる。						
授業計画	第1回 ファンタジーとは何か 定義・歴史・構造 第2回 『指輪物語』(1) 映画版の鑑賞 作品の概要 第3回 『指輪物語』(2) 物語の構成と素材について 第4回 『ナルニア国物語』の特徴 第5回 『ゲド戦記』(1) 映画版の鑑賞 作品の概要 第6回 『ゲド戦記』(2) 物語の構成と映画版との違い 第7回 「ハリー・ポッター」シリーズ(1) 「秘密の部屋」の鑑賞と作品全体の概要 第8回 「ハリー・ポッター」シリーズ(2) 作品が反映する現代社会の問題 第9回 「ハリー・ポッター」シリーズ(3) ヴォルデモートに見られる悪と血統の問題 第10回 「ハリー・ポッター」シリーズ(4) 他のファンタジー作品との比較 第11回 『千と千尋の神隠し』(1) 作品の鑑賞 物語の概要 第12回 『千と千尋の神隠し』(2) 善と悪の問題とイニシエーション 第13回 『千と千尋の神隠し』(3) 女性と労働 第14回 『アナと雪の女王』の革新性 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で映画になったファンタジー作品を部分的に鑑賞するが、全体を通して見る時間がないので、授業の前に各自で作品を見ておくこと（学習時間2時間）。また毎回授業のまとめと意見を書くプリントに、自分で見たり読んだりした作品の小レポートを書く欄を設けるので、自分で興味を持った作品を選び、書き込んでおくこと（学習時間2時間）。						
授業方法	講義と演習。毎回、取り上げる作品のワンシーンを見ながら解説していきます。ひとつの作品につきテーマを決めてグループでディスカッションしてもらい、その内容をまとめ、簡単なプレゼンテーションをしてもらいます。						
評価基準と評価方法	平常点50点(毎回の授業の最後に専用の用紙に簡単なまとめと自分なりの解釈を書いてもらい、評価します)と筆記試験50点。						
履修上の注意	出席を重視します。						
教科書	教科書は使用せず、随時プリントを配布します。						
参考書	小谷真理『ファンタジーの冒険』、脇明子『魔法ファンタジーの世界』、アーシュラ・K・ル＝グウィン『夜の言葉 ファンタジー・SF論』、島田裕己『ハリー・ポッター 現代の聖書』、河野真太郎『戦う姫、働く少女』						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	フォトグラフィー・シネマトグラフィー／文芸との触れ合いⅡIB						
担当教員	徳永 隆之					科目ナンバ-	A22060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術としての写真						
授業の概要	写真を使った作品制作に取り組み、制作者の視点から美術作品を考察します。最初にピンホールカメラを製作及び撮影をおこない写真の原理について学びます。その後、デジタルカメラを使用し撮影に関する基本的な技術を習得します。また、大型カメラでの撮影も体験し写真術に対する理解を深めます。実習と平行して写真作家の作品集鑑賞をおこない、作品に込められたメッセージを読み取ることを試みます。						
到達目標	1. カメラの原理を理解し、写真を通して表現活動をおこなうことができる【知識・理解】 2. 芸術作品を通して思考の過程を学び、現代社会の問題と向き合うことができる【汎用性技能】						
授業計画	第1回 授業ガイダンス 第2回 ピンホールカメラ製作 第3回 撮影実習①（ピンホールカメラにて撮影をおこなう） 第4回 画像調整ソフトの使用説明 第5回 撮影実習②（被写界深度について学ぶ） 第6回 撮影実習③（シャッタースピードの効果について学ぶ） 第7回 blogの作成及びweb上への画像掲載 第8回 大型カメラの使用説明 第9回 撮影実習④（大型カメラ/ビュータイプを使用して撮影をおこなう） 第10回 撮影実習⑤（大型カメラ/フィールドタイプを使用して撮影をおこなう） 第11回 撮影実習⑥（デジタル一眼レフを使用して撮影をおこなう） 第12回 作品集鑑賞①（作家の思考過程を学ぶ） 第13回 作品集鑑賞②（興味がある作家を探す） 第14回 作品集鑑賞③（レポート作成に必要な資料を探す） 第15回 画像編集及びレポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【事前学習】配布するテキストや資料を読み、次回に学ぶ内容を把握する(90分) 【事後学習】各自で被写体を探し撮影をおこない授業で学んだ技術を復習する(90分)						
授業方法	実習及び演習となります。大型カメラは特殊なカメラであり一人で撮影をおこなうことは困難です。その為、3～5人程度のグループに分かれ、各々の得意分野を活かした実習をおこないます。						
評価基準と評価方法	「課題20%レポート20%平常点60%(実習への参加度)」 この授業は実習が過半数を占めます。出席できなければ課題をおこなうことができず評価が下がることへ繋がりますので欠席しないよう心掛けて下さい。 平常点：実習への参加度を含め、機材の操作方法への理解度について評価します。 課題：「作品とは何か」について考え制作されているか等を評価する。 レポート：写真集は見るものでなく読むものであると考えられます。見るだけに終始していないことを評価します。						
履修上の注意	1. 履修の対象者 写真に興味がある人を対象とします。特に美術に関心があることが望ましい。 2. 履修上の注意 12回以上の出席がなければ単位の修得資格を失います。						
教科書	必用な際にプリントを配布します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸インターンシップ						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ-	A73120
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のキャリアに関連した10日間の就業体験を通して、専攻の分野がどのように活かされるか、また社会で働くことの意義を考える。						
授業の概要	①業務体験実習を通して、社会で働くことの意義とその働き方について考える。 ②業務体験実習を通して、職場の実態やビジネスルール、マナーを学ぶ。 ③社会人としての心構えを学び、体験を通して豊かな自己表現力を身につける。 ①～③について、主体的に学び、将来の就業に向けてチャレンジできるようにサポートする。						
到達目標	1. 文芸作品がビジネスの現場で、どのように流通しているかを説明できる。【知識・理解】 2. 文芸作品が社会の中で、どのように取り扱われているかを説明できる。【知識・理解】 3. 文芸の知識を就職現場で生かす方法を知ることができる。【態度・嗜好性】						
授業計画	【事前学習】（6月、7月） 1. ビジネス基礎講座 ・ インターンシップについて ・ グループワーク ・ 会社の仕組み、ビジスマナーなど 2. 実習先の企業調査など ・ 次週先の内容研究 ・ 実習先とのマッチング ・ 履歴書の書き方など 【夏休みの就業体験】 ・ 実習1①～⑩（各企業における就業体験） （原則、実習は10日間、70時間以上） 【事後学習】（9月） ・ 実習の振り返り ・ 実習の体験発表 ・ グループディスカッション ・ 実習報告書作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	文芸を取り扱っている現場（書店、劇場、Web、他）に絶えず触れ、個々の作品がどのように商品として流通しているかを知っておく（30時間以上）。また、その際、関係者の接客態度や現場で必要とされる知識を観察しておくこと。						
授業方法	事前学習は、企業研究とその結果発表をグループ単位で行う。 就業体験は、実際の現場で70時間の研修を受ける（体験労働を含む）。 事後学習は、就業体験をグループでまとめ、発表する。						
評価基準と評価方法	事前・事後レポート（プレゼンテーションを含む）＝40％ 実習先での評価＝60％ 疑問点、評価内容については、授業の前後、オフィスアワーで受け付ける。						
履修上の注意	①就業体験を「強く」希望する者のみの登録を認める。 ②原則として、遅刻・欠席は不可。特に、就業体験期間中は、遅刻欠席は認められない。 ③健康管理が、きちんとできる者のみの登録を認める。 ④研修先への交通費は、自己負担。 ⑤教員への連絡・報告・相談を怠らないこと。 （この科目は履修者制限科目です。4月以降の登録はできません。）						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸演習A						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ-	A0308A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本社会の文化現象を探る。						
授業の概要	サブカルチャー現象（映画、アニメetc）について書かれた評論文を読みながら、現代社会の文化現象を分析する。						
到達目標	① 文芸作品の意味を読み取り、解釈することができる。【汎用的技能】 ② 現代文化の重要作品を見分けることができる。【汎用的技能】 ③ 現代日本社会の文化現象を説明することができる。【態度・嗜好性】						
授業計画	前期 1. 導入 2. 映画「アメリカン・ヒーローの変貌とアメリカの歴史」 (1) 3. 同 (2) 4. アニメ「キンプリにおける4次元の想像力」 (1) 5. 同 (2) 6. 小説「ベストセラー・ライトノベルのしくみ」 (1) 7. 同 (2) 8. アイドル「平成はアイドルをどう変えたのか」 (1) 9. 同 (2) 10. TVドラマ「女の子はライダーになれたのか」 (1) 11. 同 (2) 12. ゲーム「ソーシャルゲームの現在」 (1) 13. 文化「四谷怪談とローマの休日」 (1) 14. 同 (2) 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：サブカルチャー（マンガ、アニメ、ゲームetc）の作品を鑑賞・体験する。（30時間）。 事後学習：鑑賞・体験した作品の関連文献を読む。（30時間）						
授業方法	演習。テーマを取り扱った文章を読みながら、質疑応答を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（56％）：棺応答の内容を3段階で評価する。 テスト（44％）：授業内容が理解できているかどうかを確認するテストを行う。						
履修上の注意	2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	プリントを配布						
参考書	授業中に指示する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸演習A						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	A0308A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	メディア文化の社会学						
授業の概要	メディア（出版やテレビ、ネット、ソーシャルメディア）や広告・広報、サブカル（漫画やアニメ）、都市文化などのさまざまなメディア現象から、私たちが生きている現代社会のありようや問題点を探る。とりわけ、これらのメディア現象をより広い社会的文脈（社会心理、文化、メディア環境、社会制度）や社会的要因（ジェンダー、年齢、階層）と関連づけて考察する。そのために、先行研究となるテキストを読み解き発表を通して、メディア現象についての問いを立て、調べ、分析するための視点や方法について学ぶ。						
到達目標	<p>（1）さまざまなメディア現象を切り口に、現代社会のありようや問題点を考えることができる。【汎用的技術】【態度・志向性】</p> <p>（2）テキストの内容を正確に理解し、他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】【汎用的技術】</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション／テキスト選定、発表者割り当て 2 コンテンツ紹介① 3 コンテンツ紹介② 4 4回生による研究発表とディスカッション① 5 4回生による研究発表とディスカッション② 6 4回生による研究発表とディスカッション③ 7 4回生による研究発表とディスカッション④ 8 3回生による研究発表とディスカッション① 9 3回生による研究発表とディスカッション② 10 3回生によるテキストの要約発表とディスカッション③ 11 3回生によるテキストの要約発表とディスカッション④ 12 3回生によるテキストの要約発表とディスカッション⑤ 13 3回生によるテキストの要約発表とディスカッション⑥ 14 予備日 15 まとめ <p>・テキストは、教員が提示するリストから一緒に選ぶ。 ・なお、授業の進展にあわせて内容を変更する可能性がある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習： 事前にテキストを精読し自分の考えや疑問を整理しておく。発表を担当するときは、テキストのほか参考文献にも目を通したうえで、発表レジュメを作成する。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習： ディスカッションで議論した内容を整理しておく。（学習時間：2時間）</p>						
授業方法	演習。学生によるテキストの要約発表およびディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	<p>発表 70%： テキストで扱った内容の理解度、および、発表レジュメの内容・記述の的確さ、を評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。</p> <p>授業への参加度 30%： ディスカッションにおける質疑応答の的確性を評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。</p>						
履修上の注意	<p>自分が発表する日に無断欠席をすることは厳禁。 授業外における活動が生じる場合でも積極的に取り組むこと。なお、フィールドワークを実施する場合、費用は実費負担。 2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。</p>						
教科書	授業中に指定する。						
参考書	授業中に指定する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸演習A						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバ-	A0308A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	演劇研究の様々な要素、すなわち俳優、戯曲、演出、舞台美術などの上演での役割やその歴史などの基本知識を習得し、卒業研究に向けて各自のテーマを設定できる土台を作っていく。						
授業の概要	サーカスや大道芸の歴史と発展、あるいはシルク・ドゥ・ソレイユについてのテキストを読み、舞台パフォーマンスの理解を深め、演技、演出、ストーリー構成、そして舞台美術や舞台効果などの視点から分析する基本知識を獲得してゆく						
到達目標	①演劇や映像作品の分析。検証能力を高め、卒業研究に向けたテーマ設定ができるようになる（汎用的技能） ②サーカスや大道芸の歴史、またはその特徴について、しっかりと自分の言葉で語るようになる（知識・理解） ③舞台パフォーマンスを深く学び、演劇への興味・関心を具体的に意識することができる（態度・志向性）						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. サーカスというジャンルについて。① 3. サーカスというジャンルについて。② 4. 大道芸というジャンルについて。① 5. 大道芸というジャンルについて。② 6. シルク・ドゥ・ソレイユについて。① 7. シルク・ドゥ・ソレイユについて② 8. 観劇実習に向けて：作品と劇団についての紹介。 9. 観劇実習（『ギア』を予定） 10. 観劇した作品の批評 11. 劇場見学（兵庫県立ピッコロシアターを予定） 12. シルク・ドゥ・ソレイユの作品分析：演技とパフォーマンス 13. シルク・ドゥ・ソレイユの作品分析：物語とテーマ 14. シルク・ドゥ・ソレイユの作品分析：舞台美術 15. シルク・ドゥ・ソレイユの作品分析：演出 <p>※学外研修を実施予定</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で与えられたテーマに関して、本やインターネットから情報収集を行い、400字程度にまとめておく。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容を整理してまとめる。各自のテーマに合わせてプレゼンテーションの準備を行う。（学習時間：3時間）						
授業方法	演習を中心に行う。 テーマに関する個人のプレゼンテーションを中心に、ディスカッションで理解を深め、必要な情報、または知識に関しては補足として講義で解説する。						
評価基準と評価方法	授業内提出物（50%）、個人発表（30%）観劇レポート（20%） 授業内提出物：各回の授業で行うリアクションペーパー（授業内容に関するコメント質問など）の内容や記述の的確さ等を評価する。到達目標②と③の到達度を確認 個人発表：それぞれのテーマに関して30分のプレゼンテーションを行う。到達目標①と②の到達度を確認 観劇レポート：2回ある観劇実習のレポートを1000字程度で作成。到達目標①、②、③の到達度の確認						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、最終プレゼンテーションの資格を失うものとする。 学外研修として、観劇実習を1回行いますが、3000円程度の実費負担となります。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	佐和田敬司、藤原慎太郎、冬木ひろみ、丸本隆、八木斉子（編）『演劇学のキーワード』ペリかん社、2007						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸演習B						
担当教員	打田 素之					科目ナンバー	A0308B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本社会の文化現象を探る。						
授業の概要	卒論作成を視野に入れた参加者の発表を中心に、質疑応答形式の授業を行う。						
到達目標	① 文芸作品の意味を読み取り、解釈することができる。【汎用的技能】 ② 現代文化の重要作品を見分けることができる。【汎用的技能】 ③ 現代日本社会の文化現象を説明することができる。【態度・嗜好性】						
授業計画	1. 導入 2. 発表例の提示 (1) 3. " (2) 4. " (3) 5. 参加者の発表 (1) 6. " (2) 7. " (3) 8. " (4) 9. " (5) 10. " (6) 11. " (7) 12. " (8) 13. " (9) 14. " (10) 15. まとめとテスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習：サブカルチャー（マンガ、アニメ、ゲームetc）の作品を鑑賞・体験する。（30時間） 事後学習：鑑賞・体験した作品の関連文献を読む。（305時間）						
授業方法	演習。テーマを取り扱った文章を読みながら、質疑応答を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（56%）：棺応答の内容を3段階で評価する。 テスト（44%）：授業内容が理解できているかどうかを確認するテストを行う。						
履修上の注意	2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	プリントを配布						
参考書	授業中に指示する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸演習B						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A0308B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	メディア文化の社会学						
授業の概要	メディア（出版やテレビ、ネット、ソーシャルメディア）や広告・広報、サブカル（漫画やアニメ）、都市文化などのさまざまなメディア現象から、私たちが生きている現代社会のありようや問題点を探る。とりわけ、メディア表現による社会問題の解決の可能性について考える。そのために、メディア制作を通して、コミュニケーション・デザインのための知識や実践的な方法について学ぶ。						
到達目標	<p>(1) さまざまなメディア現象を切り口に、現代社会のありようや問題点を考えることができる。【汎用的技術】【態度・志向性】</p> <p>(2) メディア制作を通じて、他者と協働し、自らのアイデアを表現するための実践的な技法を習得することができる。【汎用的技術】</p>						
授業計画	<p>1 イントロダクション</p> <p>2 4回生による研究発表とディスカッション①</p> <p>3 4回生による研究発表とディスカッション②</p> <p>4 4回生による研究発表とディスカッション③</p> <p>5 4回生による研究発表とディスカッション④</p> <p>6 メディア制作①</p> <p>7 メディア制作②</p> <p>8 メディア制作③</p> <p>9 メディア制作④</p> <p>10 メディア制作⑤</p> <p>11 メディア制作⑥</p> <p>12 メディア制作⑦</p> <p>13 メディア制作発表①</p> <p>14 メディア制作発表②</p> <p>15 まとめ</p> <p>・メディア制作の内容は授業中に教員とともに考える。 ・なお、授業の進展にあわせて内容を変更する可能性がある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業の前後に松蔭manabaを活用しながらグループで作業を進める。（学習時間：3時間）						
授業方法	演習。 メディア制作に際しては、松蔭manabaを活用しながらグループワークにもとづく学習を実施し、成果物を制作、発表する。						
評価基準と評価方法	<p>制作課題 70%： 制作物を通じたアイデア表現の的確性・創造性を評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。</p> <p>授業への参加度 30%： グループワーク参加への積極性および協調性を評価する。到達目標（2）の到達度の確認。</p>						
履修上の注意	メディア制作ではとくに主体的に取り組むことが求められるため、授業外における活動が生じる場合でも積極的に取り組むこと。 2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	授業中に指定する。						
参考書	授業中に指定する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸演習B						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバ-	A0308B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	演劇研究の様々な要素、すなわち俳優、戯曲、演出、舞台美術などの上演での役割やその歴史などの基本知識を習得し、卒業研究に向けて各自のテーマを設定できる土台を作っていく。						
授業の概要	サーカスや大道芸の歴史と発展、あるいはシルク・ドゥ・ソレイユについてのテキストを読み、舞台パフォーマンスの理解を深め、演技、演出、ストーリー構成、そして舞台美術や舞台効果などの視点から分析する基本知識を獲得してゆく。また卒業論文に向けて各自関心のあるテーマの発表も行っていく。						
到達目標	①演劇や映像作品の分析。検証能力を高め、卒業研究に向けたテーマ設定ができるようになる（汎用的技能） ②サーカスや大道芸の歴史、またはその特徴について、しっかりと自分の言葉で語るようになる（知識・理解） ③舞台パフォーマンスを深く学び、演劇への興味・関心を具体的に意識することができる（態度・志向性）						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 後期イントロダクション:授業の進め方 2. 大道芸とサーカスについてのまとめ:歴史 3. 大道芸とサーカスについてのまとめ:パフォーマンス 4. 大道芸とサーカスについてのまとめ:未来のパフォーマンス 5. 個人研究のプレゼンテーション 6. 個人研究のプレゼンテーション 7. 観劇実習にむけて 8. 観劇実習(ミュージカル作品を予定) 9. 観劇した作品の批評 10. 個人研究のプレゼンテーション 11. 個人研究のプレゼンテーション 12. 個人研究のプレゼンテーション 13. 未来のサーカスについての企画:テーマ 14. 未来のサーカスについての企画:構成 15. 未来のサーカスについての企画発表 <p>※観劇実習の時期は、変更する可能性があります。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習:各回で与えられたテーマに関して、本やインターネットから情報収集を行い、400字程度にまとめておく。(学習時間:2時間)</p> <p>授業後学習:授業内容を整理してまとまる。各自のテーマに合わせてプレゼンテーションの準備を行う。(学習時間:3時間)</p>						
授業方法	演習を中心に行う。 テーマに関する個人のプレゼンテーションを中心に、ディスカッションで理解を深め、必要な情報、または知識に関しては補足として講義で解説する。						
評価基準と評価方法	<p>授業内提出物(50%)、個人発表(30%)観劇レポート(20%)</p> <p>授業内提出物:各回の授業で行うリアクションペーパー(授業内容に関するコメント質問など)の内容や記述の的確さ等を評価する。到達目標②と③の到達度を確認</p> <p>個人発表:それぞれのテーマに関して30分のプレゼンテーションを行う。到達目標①と②の到達度を確認</p> <p>観劇レポート:2回ある観劇実習のレポートを1000字程度で作成。到達目標①、②、③の到達度を確認</p>						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、最終プレゼンテーションの資格を失うものとする。 学外研修として、観劇実習を1回行いますが、3000円程度の実費負担となります。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	佐和田敬司、藤原慎太郎、冬木ひろみ、丸本隆、八木斉子(編)『演劇学のキーワード』ペリかん社、2007						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸創作法／文芸との触れ合いIA						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ-	A22010
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	物語の文法を学びながら、ヒットの作の作り方を探る。						
授業の概要	ハリウッド映画の法則、ファンタジーの文法について学ぶ。エンタテインメントと「芸術」の境界がどこにあるのかについても考える。						
到達目標	① 虚構作品の法則性を指摘することができる。 ② 物語の法則に従って、フィクションを作成できる。						
授業計画	1. 導入 2. 映画の脚本術 (1) インTRODクシヨN 3. 同 (2) ファースト・インシデント 4. 同 (3) ターニングポイント 5. 同 (4) クライマックスとエンディング 6. 物語の文法 (1) 登場人物の機能 7. (2) 禁止・留守・禁を破る 8. (3) 敵の出現・戦い 9. (4) 呪術の贈与 10. (5) 援助者の出現・呪具 11. (6) 帰還と追跡 12. (7) 難題の解決・婚礼 13. エンタメと文学 (1) ライトノベルと大衆小説 14. 同 (2) 文芸作品 15. まとめとテスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習：いろいろな物語を鑑賞する。(1.5時間) 事後学習：いろいろな映像作品を見る。(1.5時間)						
授業方法	講義。テーマについて解説した後、常に質問に答える質疑応答形式で行う。						
評価基準と評価方法	平常点(56%)：質疑応答の内容を3段階で評価する。 期末テスト(44%)：講義内容を問う問題 + 自作の物語(シナリオ・粗筋)作成。						
履修上の注意	2/3以上の出席に満たない者は受験資格を失う。						
教科書	プリント配布。						
参考書	芦刈いずみ『時計仕掛けのハリウッド映画』(角川SSC新書) W・プロップ『昔話の形態学』(水声社) 大塚英志『ストーリーメーカー』(星海社新書) 小夜和歌『文学の読み方』(星海社新書)						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習II						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバ-	A64020
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	演劇研究の様々な要素、すなわち俳優、戯曲、演出、舞台美術などの上演での役割やその歴史などの基本知識を習得し、卒業研究に向けて各自のテーマを設定できる土台を作っていく。						
授業の概要	サーカスや大道芸の歴史と発展、あるいはシルク・ドゥ・ソレイユについてのテキストを読み、舞台パフォーマンスの理解を深め、演技、演出、ストーリー構成、そして舞台美術や舞台効果などの視点から分析する基本知識を獲得してゆく。後期の途中からは各個人の関心のあるテーマについて発表を行う。						
到達目標	①演劇や映像作品の分析。検証能力を高め、卒業研究に向けたテーマ設定ができるようになる（汎用的技能） ②サーカスや大道芸の歴史、またはその特徴について、しっかりと自分の言葉で語るようになる（知識・理解） ③舞台パフォーマンスを深く学び、演劇への興味・関心を具体的に意識することができる（態度・志向性）						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. サーカスというジャンルについて。① 3. サーカスというジャンルについて。② 4. 大道芸というジャンルについて。① 5. 大道芸というジャンルについて。② 6. シルク・ドゥ・ソレイユについて。① 7. シルク・ドゥ・ソレイユについて② 8. 観劇実習に向けて：作品と劇団についての紹介。 9. 観劇実習（『ギア』を予定） 10. 観劇した作品の批評 11. 劇場見学（兵庫県立ピッコロシアターを予定） 12. シルク・ドゥ・ソレイユの作品分析：演技とパフォーマンス 13. シルク・ドゥ・ソレイユの作品分析：物語とテーマ 14. シルク・ドゥ・ソレイユの作品分析：舞台美術 15. シルク・ドゥ・ソレイユの作品分析：演出 16. 後期イントロダクション 17～21. 4年生による卒論についての中間発表 22. 観劇実習にむけて 23. 観劇実習（ミュージカル作品を予定） 24. 観劇した作品の批評 25～29. 3年生の発表（戯曲や論文、または映像作品について） 30. まとめ <p>※観劇実習の時期は、変更する可能性があります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回で与えられたテーマに関して、本やインターネットから情報収集を行い、400字程度にまとめておく。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：授業内容を整理してまとまる。各自のテーマに合わせてプレゼンテーションの準備を行う。（学習時間：3時間）</p>						
授業方法	演習を中心に行う。 テーマに関する個人のプレゼンテーションを中心に、ディスカッションで理解を深め、必要な情報、または知識に関しては補足として講義で解説する。						
評価基準と評価方法	<p>授業内提出物（50%）、個人発表（30%）観劇レポート（20%）</p> <p>授業内提出物：各回の授業で行うリアクションペーパー（授業内容に関するコメント質問など）の内容や記述の的確さ等を評価する。到達目標②と③の到達度を確認</p> <p>個人発表：それぞれのテーマに関して30分のプレゼンテーションを行う。到達目標①と②の到達度を確認</p> <p>観劇レポート：2回ある観劇実習のレポートを1000字程度で作成。到達目標①、②、③の到達度の確認</p>						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、最終プレゼンテーションの資格を失うものとする。						
教科書	適宜プリントを配布する。						

参考書	佐和田敬司、藤原慎太郎、冬木ひろみ、丸本隆、八木斉子（編）『演劇学のキーワード』ペリカン社、2007
-----	--

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習V						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ	A64050
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	メディア文化の社会学						
授業の概要	<p>メディア（出版やテレビ、ネット、ソーシャルメディア）や広告・広報、サブカル（漫画やアニメ）、都市文化などのさまざまな社会現象から、私たちが生きている現代社会のありようや問題点を探ります。そのために、先行研究を参照することで、こうした社会現象から現代社会についての問いを立て、調べ、分析するための視点や方法について学びます。</p> <p>そうして、身近なメディア現象をより広い社会的文脈（メンタリティー、文化、メディア環境、社会制度）や社会的要因（ジェンダー、年齢、階層）と関連つけて考察できるようになることが、この演習のねらいです。</p> <p>前期は、全員でテキストを講読したあと、受講生による発表をします。後期は、やはり受講生による発表を中心に、可能であればメディア制作やフィールドワークを行います。</p>						
到達目標	<p>(1) メディアに関連するさまざまな社会現象を切り口に、先行研究を踏まえたうえで、現代社会のありようや問題点を考えることができるようになります。【汎用的技術】【態度・志向性】</p> <p>(2) メディア制作を通じて、アイデアを表現するための実践的なスキルを習得します。【汎用的技術】</p>						
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション／テキスト選定、発表者割り当て 2 コンテンツ紹介① 3 コンテンツ紹介② 4 4回生による研究発表とディスカッション① 5 4回生による研究発表とディスカッション② 6 4回生による研究発表とディスカッション③ 7 4回生による研究発表とディスカッション④ 8 3回生による研究発表とディスカッション① 9 3回生による研究発表とディスカッション② 10 3回生によるテキストの要約発表とディスカッション③ 11 3回生によるテキストの要約発表とディスカッション④ 12 3回生によるテキストの要約発表とディスカッション⑤ 13 3回生によるテキストの要約発表とディスカッション⑥ 14 予備日 15 まとめ <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 16 イントロダクション 17 4回生による研究発表とディスカッション① 18 4回生による研究発表とディスカッション② 19 4回生による研究発表とディスカッション③ 20 4回生による研究発表とディスカッション④ 21 メディア制作① 22 メディア制作② 23 メディア制作③ 24 メディア制作④ 25 メディア制作⑤ 26 メディア制作⑥ 27 メディア制作⑦ 28 メディア制作発表① 29 メディア制作発表② 30 まとめ <p>・テキストは、教員が提示するリストから一緒に選びます。 ・なお、授業の進展にあわせて内容を変更する可能性があります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習： テキスト要約発表の回は、事前に各自テキストを精読し自分の考えや疑問を整理しておく。発表を担当するときは、テキストのほか参考文献にも目を通したうえで、発表レジュメを作成する。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習： メディア制作に際しては、松蔭manabaを活用しながらグループで作業を進める。（学習時間：2時間）</p>						
授業方法	<p>演習。テキストの要約発表に際しては、個人によるテキストの要約発表およびディスカッションを行う。メディア制作に際しては、松蔭manabaを活用しながらグループワークにもとづく学習を実施し、成果物を制作、発表する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>発表および制作物 70%： テキストで扱った内容の理解度、および、発表レジュメの内容・記述的確かさ、を評価する。また、制作発表を通じた興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。</p> <p>授業への参加度 30%： ディスカッションにおける質疑応答の的確性、および、グループワーク参加への積極性、を評価する。到達目標</p>						

評価基準と評価方法	(1) および(2)の到達度の確認。
履修上の注意	自分が発表する日に無断欠席をすることは厳禁。 メディア制作やフィールドワーク等、授業外における活動が生じる場合でも積極的に取り組むこと。 なお、フィールドワークを実施する場合、費用は実費負担。 2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。
教科書	授業中に指定します。
参考書	授業中に指定します。

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸と公共性						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	A73110
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸との出会いの場を考える						
授業の概要	この講義では、ミュージアムや書店、劇場などの文化施設を対象に、文芸の魅力をいかにして伝えることができるかを考える。各施設ごとに、その領域を専門とする教員が現況の解説と課題提示を行ったあと、受講生のグループが主体となって文芸との出会いの場を企画検討し、発表する。受講生は情報収集から企画の検討、プレゼンテーションまで、グループごとに協力して作業を進めることが求められる。これら課題解決型の学びを通して、これからの文芸的公共圏のありようを探ることを目指す。						
到達目標	(1) 文芸的営みの所産が現代社会のなかでもつ意味や価値を認識し、理解することができる。【知識・理解】 (2) また、それらが抱える問題を的確に把握し、他者との協働作業を通じて、解決するためのアイデアを発信することかできる。【汎用的技能】 (3) 文芸に対する興味や関心をより具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	1 インTRODakション 2 文芸と公共性 3 ミュージアムの企画 (1) : 課題の提示、グループ分け 4 ミュージアムの企画 (2) : グループワーク①: 情報収集、企画の検討 5 ミュージアムの企画 (3) : グループワーク②: 発表準備 6 ミュージアムの企画 (4) : プレゼンテーション、投票 7 書店の企画 (1) : 課題の提示、グループ分け 8 書店の企画 (2) : グループワーク①: 情報収集、企画の検討 9 書店の企画 (3) : グループワーク②: 発表準備 10 書店の企画 (4) : プレゼンテーション、投票 11 劇場の企画 (1) : 課題の提示、グループ分け 12 劇場の企画 (2) : グループワーク①: 情報収集、企画の検討 13 劇場の企画 (3) : グループワーク②: 発表準備 14 劇場の企画 (4) : プレゼンテーション、投票 15 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業の前後に、授業内で指示した課題について、松蔭manabaを活用しながらグループで作業を進める。(学習時間: 4時間)						
授業方法	グループワークを通して企画を検討し、その成果をプレゼンテーションのかたちで発表する。ICT機器を活用して受講生の考えや意見を取り入れるなど、双方向型の授業を実施する。松蔭manabaを利用して授業の前後学習を行う。						
評価基準と評価方法	プレゼンテーション 75% : 授業で扱ったテーマの理解度および企画内容の的確性・創造性を評価する。到達目標 (1) および (2) の到達度の確認。 授業への参加度 25% : グループワークへの積極的な参加を評価する。到達目標 (2) および (3) の到達度の確認。 プレゼンテーションに対する評価は、翌週の授業で紹介することでフィードバックする。						
履修上の注意	「文芸インターンシップ」に参加する予定の学生は、できる限りこの科目を受講すること。グループワークへの積極的な参加が求められる。2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	毎回プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	マスコミ文章編集A						
担当教員	佐藤 千晴					科目ナンバ-	A7314A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞の精読・製作を通して、新聞の文章を読み解く能力を獲得する。さらに情報を判断する力、調べる力、表現する力を育てる ・ニュースに接触する習慣を身につける 						
授業の概要	<p>新聞の記事、見出し、レイアウトにはニュースを伝える知恵が詰まっています。この授業では講義と新聞記事を素材にした様々な実習でその知恵を具体的に学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽新聞、インターネットメディアなどの情報を読み解く力 ▽文章を書く力 ▽新聞という形で記事を組み合わせて、表現する力の三つを育て、新聞やテレビ、インターネットのニュースに接触する習慣の獲得を目指します。 <p>前期のマスコミ文章編集Aは主に読む実習、後期のマスコミ文章編集Bは主に新聞製作実習です。A・B両方の受講を原則とします。</p>						
到達目標	<p>【汎用的機能】 【態度志向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞の読み方を知る ・新聞などメディアの情報を批判的に読み解けるようになる ・新聞やテレビ、インターネットのニュースに接触する習慣を身につける 						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 新聞・メディアの活用法/シラバス解説</p> <p>第2回 新聞の読み方を学ぶ① 新聞の構成/新聞記事を使った実習・ニュースの価値判断①</p> <p>第3回 新聞の読み方を学ぶ② 見出しとレイアウト/実習・ニュースの価値判断②</p> <p>第4回 新聞の読み方を学ぶ③ 記事の種類/新聞記事を使った実習・事実と解釈</p> <p>第5回 新聞の読み方を学ぶ④ 「5W1H」を意識する/新聞記事を使った実習・縮約</p> <p>第6回 新聞整理ノートを作る①基本/新聞を使った実習①縮約</p> <p>第7回 新聞整理ノートを作る②質問力/見出し作成実習/新聞を使った実習・縮約</p> <p>第8回 新聞整理ノートを作る③記事の背景を知る/新聞を使った実習・要約</p> <p>第9回 新聞整理ノートを作る④テーマを決めてスクラップ/見出しを学ぶ①見出しの構造を学び、実際につけてみる</p> <p>第10回 見出しを学ぶ②ネットと新聞の見出しの比較/新聞を使った実習・見出しを集める</p> <p>第11回 記事を書いてみる① コラムの構造を分析する</p> <p>第12回 記事を書いてみる②コラムを書く</p> <p>第13回 記事を書いてみる③コラムを書く</p> <p>第14回 記事を書いてみる④コラムを完成、提出</p> <p>第15回 まとめ</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>【事前学習】 【事後学習】</p> <p>毎日、30分程度は新聞やテレビ、インターネットでニュースにふれてください。授業で毎回、気になったニュースの紹介と一言コメントを発表してもらうために必要です。(3時間半/週)</p> <p>スクラップ、作文などの課題も随時、出します。</p>						
授業方法	パソコン教室での講義、ディスカッション、実習です。						
評価基準と評価方法	スクラップ、作文など提出物=80%：目標への到達度を確認します。 授業への積極的な参加度=20%：活発な発言を重視します。実習や課題の提出物へのフィードバックは授業時間内に行います。						
履修上の注意	毎日、新聞に目を通していることを前提に授業を進めます。新聞の定期購読を推奨します。購読できない場合は必ず新聞社のニュースサイトに毎日、目を通すか、大学図書館で新聞を読んでください。						
教科書	「新聞力 できる人はこう読んでいる」 齋藤孝・著、ちくまプリマー新書 800円+税 ISBN:978-4480689689						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	マスコミ文章編集B						
担当教員	佐藤 千晴					科目ナンバ-	A7314B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞の精読・製作を通して新聞の文章を読み解く能力を獲得する。さらに情報を判断する力、調べる力、表現する力を育てる ・ニュースに接触する習慣を身につける 						
授業の概要	<p>新聞の記事、見出し、レイアウトにはニュースを伝える知恵が詰まっています。この授業では講義と新聞記事を素材にした様々な実習でその知恵を具体的に学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽新聞、インターネットメディアなどの情報を読み解く力 ▽文章を書く力 ▽新聞という形で記事を組み合わせ、表現する力の三つを育て、新聞やテレビ、インターネットのニュースに接触する習慣の獲得を目指します。 <p>前期のマスコミ文章編集Aは主に読む実習、後期のマスコミ文章編集Bはパソコンソフト「パーソナル編集長」を使った新聞製作実習です。A・B両方の受講を原則とします。</p>						
到達目標	<p>【汎用的機能】【態度志向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞やテレビ、インターネットのニュースに接触する習慣を身につける ・新聞の構造を理解する ・伝えたいことを新聞という形にデザインして表現できるようになる 						
授業計画	<p>第1回 シラバス解説 新聞づくりのガイダンス</p> <p>第2回 「パーソナル編集長」実習① 基本を体験する/新聞実習：見出しを作る</p> <p>第3回 「パーソナル編集長」実習② 写真の取り込み方・見出しの作り方/新聞実習：見出しを作る</p> <p>第4回 「パーソナル編集長」実習③ 紙面を組んでみる/論説を書く①各紙の社説を読み比べる</p> <p>第5回 課題新聞A製作① 記事を選び、写真素材を準備する/論説を書く②構成の分析と要約実習</p> <p>第6回 課題新聞A製作② レイアウト・見出しを決める/論説を書く③要旨を書き出す</p> <p>第7回 課題新聞A製作③ 記事・写真を組み付け、整える/論説を書く④骨組みを決めて肉付けする</p> <p>第8回 課題新聞A製作④ 校閲・仕上げ・提出/論説を書く⑤完成させる</p> <p>第9回 課題新聞A製作⑤ 振り返り/論説を書く⑥提出</p> <p>第10回 課題新聞B製作① ガイダンス/テーマを決め企画書を作る</p> <p>第11回 課題新聞B製作② 記事情報・写真素材集め</p> <p>第12回 課題新聞B製作③ 記事を作成する・レイアウトを考える</p> <p>第13回 課題新聞B製作④ レイアウト作業</p> <p>第14回 課題新聞B製作⑤ 仕上げ・提出</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>課題新聞A=新聞やインターネットのニュースから選んだ記事と新聞掲載コラムで新聞をつくる 課題新聞B=好きなテーマを設定し、ネットなどから集めた記事とオリジナル記事・写真・コラムを組み合わせで新聞をつくる</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>【事前学習】【事後学習】</p> <p>毎日、30分程度は新聞やテレビ、インターネットでニュースにふれてください。授業で毎回、気になったニュースの紹介と一言コメントを発表してもらうために必要です。(3時間半/週)</p> <p>特に新聞の見出しはしっかりチェックしてください。</p>						
授業方法	パソコン教室での講義、実習が中心です。ディスカッションも随時、設定します。						
評価基準と評価方法	課題新聞A・B=70%：目標への到達度を確認します。評価基準は授業中にお知らせします。 作文などその他提出物=20%、授業への参加度=10%：積極的な質問や発言を重視します。						
履修上の注意	前期のマスコミ文章編集Aも受講していることを前提に講義を進めます。 新聞の定期購読を推奨します。購読できない場合は必ず新聞社のニュースサイトに毎日アクセスするか、大学図書館で新聞を読んでください。						
教科書	「新聞力 できる人はこう読んでいる」 齋藤孝・著、ちくまプリマー新書 780円+税 ISBN:978-4480689689						
参考書	「パソコン編集入門」(「パーソナル編集長バージョン12」対応版) =坂手崇保・高橋忠・著、日本機関紙出版センター・刊 2200円+税 ISBN: 978-4889009422						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	民俗の比較文芸史／比較文化IVA						
担当教員	押川 かおり					科目ナンバ-	A32050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	十二支の動物を中心に、文化によって動物のイメージがどのように異なるかをみていく。						
授業の概要	動物は、神話、文学、ことわざ、意匠として、われわれの生活のなかに登場する。同じ動物も、文化が異なるとその描かれかたは異なり、担う意味意味も異なる。ここでは、数多い動物の中から十二支の子丑寅卯辰巳の六種類に絞り、日本と諸外国とを比較し、動物の姿を追う。						
到達目標	1. 日本や外国の幅広いジャンルの作品、言語表現に目を通すことでさまざまな表現を知る。また、必要に応じてみずから調査する。【理解・知識・態度】 2. 表現されたものを客観的にとらえ、比較・分析し、特性や傾向を読み取り、さまざまな可能性を推測する。【理解・分析力】 3. 情報を整理し、理解し、自らの言葉で表現し、第三者に伝える。【分析力・汎用力】						
授業計画	1 概説 文化の中の動物たち 2 子 日本におけるネズミ 3 子 海外におけるネズミ 4 丑 日本におけるウシ 5 丑 海外におけるウシ 6 寅 日本におけるトラ 7 寅 海外におけるトラ 8 卯 日本におけるウサギ 9 卯 海外におけるウサギ ① アジア 10 卯 海外におけるウサギ ② アジア以外の国々 11 辰 日本・アジアにおけるリュウ 12 辰 西洋におけるリュウ 13 巳 日本におけるヘビ 14 巳 海外におけるヘビ 15 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	（予習）各テーマについて、配布資料に目を通す。各テーマの動物について各自あらかじめ情報を集めて置く。 （復習）内容を整理し、気づいたこと、調べたこと、疑問点などをまとめておく。 （学習時間1～2時間）						
授業方法	講義形式。ただし、毎回各自の予習、追加調査にもとづく報告、発表、意見交換、質疑応答の機会を設ける。						
評価基準と評価方法	平常点40%（授業内での報告、発表）、レポート60% 到達目標1～3の到達度を評価する。						
履修上の注意	基礎知識は問わないが、自ら学ぼうとする積極性があることが望ましい。平常点の割合が大きいので、欠席が無いよう気を付ける。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	基礎文献、参考文献一覧を配布する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	メディア社会の諸問題／文芸特殊講義ⅡIB						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	A43030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	写真から考えるメディア社会						
授業の概要	報道写真やドキュメンタリー写真は社会の出来事を伝えてくれる一方で、ときに情報操作にも用いられる。また写真は、商品や観光地を魅力的にみせる一方で、過剰な演出を生み出すことがある。さらに写真は、スマホによって手軽に撮影しネットで共有できる一方で、容易に編集・加工されたりもする。このように、写真は政治から経済、文化にいたるまで社会と深く結びついた重要なメディアだが、それゆえときに問題を引き起こすことがある。この授業では、毎回テーマに沿った写真をもとに、写真というメディアがもつ特性やそれがもたらす問題について考える。また、実際に写真を撮ったりレイアウトを考えることで、それらを実践的に理解していく。						
到達目標	(1) 写真を批判的に読み解くための方法を身につけることができる。【知識・理解】 (2) 写真の撮影やレイアウトを通して、表現方法（メッセージを伝える力）を磨くことができる。【汎用的技能】						
授業計画	1 イン트로ダクション 2 写真とは何か 3 写真を分析する視点 4 報道と写真 (1) : 報道写真 5 報道と写真 (2) : 異文化の表象 6 消費と写真 (1) : 観光写真 7 消費と写真 (2) : キャプション 8 中間発表会 9 文化と写真 (1) : 写真を編集・加工する 10 文化と写真 (2) : 写真撮影の技法 11 写真で表現する (1) : テーマを決める 12 写真で表現する (2) : 「なにを伝えるか」を決める 13 写真で表現する (3) : レイアウトを決める 14 制作課題発表会 15 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前後学習： 中間課題および期末課題の一部については、授業外に行うことがある。（学習時間：4時間）						
授業方法	講義。中間課題や期末課題に際しては、個人やペアによるワークをする。						
評価基準と評価方法	制作課題 70%（中間課題20%＋期末課題50%）： 授業で学習した内容や技法を踏まえて課題が作成できているか評価する。到達目標（2）の到達度の確認。 授業態度 30%： 各回提出のリアクションペーパーの内容・記述の的確さを評価する。到達目標（1）の到達度の確認。 なお、中間発表会および制作課題発表会を実施し、制作課題に対する評価をフィードバックする。						
履修上の注意	2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	毎回プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	メディアと現代文化／文芸講読VB						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	A12060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映像メディアを分析する視座を学ぶ						
授業の概要	本講義では、映画の鑑賞を通して、映像メディアをより豊かに理解し分析するためのいくつかの視座を学びます。授業では、テーマごとに、まず分析手法を解説したうえで、映画を鑑賞します。鑑賞後、小レポートに取り組んでもらい、それにもとづいてディスカッションを行います。これらを通して、映像メディアを分析するためのいくつかの手法を理解し、さまざまな読みの可能性があることを学びます。こうした分析手法は、映画だけでなく、文学やアニメ、マンガなど広く文芸作品全般に応用できることを理解してもらいたいと思います。						
到達目標	(1) 映像メディア(映画)を分析するための視座を習得することができる。【知識・理解】 (2) 映画を批評し、内容について他者と討論する力を身につけることができる。【汎用的技能】						
授業計画	1 イン트로ダクション 2 批評とは：映像メディアに対するアプローチ 3 社会問題(1)：社会学的分析についての解説 4 社会問題(2)：『ズートピア』鑑賞・小レポート 5 社会問題(3)：ディスカッション 6 物語の構造(1)：構造分析についての解説 7 物語の構造(2)：『千と千尋の神隠し』鑑賞・小レポート 8 物語の構造(3)：ディスカッション 9 コミュニケーション(1)：表象分析についての解説 10 コミュニケーション(2)：『聲の形』鑑賞・小レポート 11 コミュニケーション(3)：ディスカッション 12 文化の違い(1)：比較文化論についての解説 13 文化の違い(2)：『クレイジーリッチ!』鑑賞・小レポート 14 文化の違い(3)：ディスカッション 15 まとめ ※鑑賞する作品は変更する可能性がある。						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：小レポートを作成する。(学習時間：2時間) 授業後学習：ディスカッションで議論された内容の要点を確認・整理する。(学習時間：2時間)						
授業方法	演習。作品鑑賞の後、小レポートの作成およびグループディスカッションを行う。ディスカッションの内容を踏まえて、作品の解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	小レポート 60% (15%×4回)； 作品内容の理解度、および、小レポートの内容・記述の的確さ、を評価する。到達目標(1)の到達度の確認。 授業態度 40%； ディスカッションにおける議論の的確性を評価する。到達目標(2)の到達度の確認。						
履修上の注意	鑑賞後のディスカッションに積極的に参加することが求められる。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	毎回プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	メディアとジャーナリズム／文芸特殊講義ⅡⅡA						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	A43020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会におけるジャーナリズムとメディア						
授業の概要	インターネットを通じて誰もが報道・評論活動を行ないうる現在、ジャーナリズムやメディアに関する基本的な知識を知っておくことは重要である。この授業では、わたしたちが生活していくなかで最低限知っておくべき報道やメディアについて概括的に学ぶ。とりわけ、新聞・出版・テレビ・インターネットの各メディアをとりあげ、インターネット時代におけるメディア産業のあり方や問題を考える。また、ニュースを読み解くための重要なキーワードを理解しながら、時事的な問題についての知識も身につける。						
到達目標	(1) ジャーナリズムやメディアについての基本的な知識を得ることができる。【知識・理解】 (2) 身近なニュースから現在の報道やメディアのあり方について考え、議論する力を身につけることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】						
授業計画	1 インTRODクシヨン 2 ジャーナリズムとは何か 3 メディアのいま(1)：新聞社 4 メディアのいま(1)：ネット時代のニュース 5 キーワードから読み解くニュース(1)：報道の自由 6 メディアのいま(2)：出版社 7 メディアのいま(2)：ネット時代の出版 8 キーワードから読み解くニュース(2)：報道被害 9 メディアのいま(3)：放送局 10 メディアのいま(3)：ネットとテレビ 11 キーワードから読み解くニュース(3)：炎上 12 メディアのいま(4)：インターネット 13 メディアのいま(4)：ウェブ・コンテンツ 14 レポート検討会 15 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習： 各回授業で扱うテーマに関するニュースや新聞記事を下調べする。(学習時間：2時間) 授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点を確認・整理する。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義。一部、簡単なグループワークをする機会を設ける。						
評価基準と評価方法	期末レポート 70%： 授業で学習した内容を踏まえたレポートが作成できているか評価する。到達目標(1)および(2)の到達度の確認。 授業態度 30%： 各回提出のリアクションペーパーの内容・記述の的確さを評価する。到達目標(1)の到達度の確認。 なお、第14回にレポート検討会を実施し、レポート内容に対する評価をフィードバックする。						
履修上の注意	マスコミ関係に就職を希望する者は受講することが望ましい。 2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	毎回プリントを配布する。						
参考書	田村紀雄・林利隆・大井真二編、『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』、世界思想社、2004年 原寿雄、『ジャーナリズムの思想』、岩波新書、1997年						